

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の災害情報に関する歴史文献を主体とした総合的研究

メタデータ	言語: 出版者: 高良倉吉 公開日: 2009-02-27 キーワード (Ja): 沖縄, 琉球, 災害史, 地震津波, 異常気象, 歴史文献情報 キーワード (En): 作成者: 高良, 倉吉, 山里, 純一, 豊見山, 和行, 真栄平, 房昭, 赤嶺, 政信, 狩俣, 繁久, Takara, Kurayoshi, Yamazato, Jyunichi, Tomiyama, Kazuyuki, Maehira, Fusaaki, Akamine, Masanobu, Karimata, Shigehisa メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8987

Ⅲ 近代初期関係

1 「沖縄県日誌」

本データベースは上杉県令「沖縄県日誌」より抽出した気象情報に関するデータである。
テキストは、琉球政府編『沖縄県史 11 上杉県令関係日誌』（琉球政府、1965、国書刊行
会にて1989年復刻）を使用した。

「沖縄県日誌」明治13年自5月至6月

p.93	5月1日	旧3月22日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午74
p.94	5月3日	旧3月24日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午75
p.97	5月4日	旧3月25日	(火)	午前小雨	午後小雨	寒暑針	正午76
p.97	5月5日	旧3月26日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午79
p.101	5月6日	旧3月27日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.102	5月7日	旧3月28日	(金)	午前雲	午後同	寒暑針	正午76
p.104	5月8日	旧3月29日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午77
p.105	5月10日	旧4月2日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.106	5月11日	旧4月3日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.108	5月12日	旧4月4日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午84
p.109	5月13日	旧4月5日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.109	5月14日	旧4月6日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.111	5月15日	旧4月7日	(土)	午前驟雨後霽	午後晴	寒暑針	正午83
p.112	5月17日	旧4月9日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午80
p.114	5月18日	旧4月10日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午80
p.115	5月19日	旧4月11日	(水)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午80
p.115	5月20日	旧4月12日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午82
p.117	5月21日	旧4月13日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午74
p.118	5月22日	旧4月14日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.119	5月23日	旧4月15日	(日)	午前曇	午後同	寒暑針	正午75
p.120	5月25日	旧4月17日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午76
p.122	5月26日	旧4月18日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午79
p.122	5月27日	旧4月19日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午79
p.125	5月28日	旧4月20日	(金)	午前雨	午後霽	寒暑針	正午79
p.126	5月29日	旧4月21日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午82
p.127	5月31日	旧4月23日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.128	6月1日	旧4月24日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午82
p.129	6月2日	旧4月25日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午77
p.131	6月3日	旧4月26日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午77

Ⅲ-1 「沖繩県日誌」

p.132	6月4日	旧4月27日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 78
p.133	6月5日	旧4月28日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82
p.134	6月7日	旧4月30日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 78
p.135	6月8日	旧5月1日	(火)	午前雨	午後霽	寒暑針	正午 83
p.137	6月9日	旧5月2日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 82
p.138	6月10日	旧5月3日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 81
p.140	6月11日	旧5月4日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 82
p.141	6月12日	旧5月5日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 80
p.142	6月14日	旧5月7日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 81
p.142	6月15日	旧5月8日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.145	6月16日	旧5月9日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 80
p.147	6月17日	旧5月10日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 83
p.148	6月18日	旧5月11日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.149	6月19日	旧5月12日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.151	6月21日	旧5月14日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 82
p.157	6月22日	旧5月15日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 84
p.158	6月23日	旧5月16日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 91
p.161	6月24日	旧5月17日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.163	6月25日	旧5月18日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.163	6月28日	旧5月21日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.164	6月29日	旧5月22日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.164	6月30日	旧5月23日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89

「沖繩県日誌」明治13年自7月至8月

p.169	7月1日	旧5月24日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.170	7月3日	旧5月26日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.170	7月5日	旧5月28日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.172	7月6日	旧5月29日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.172	7月7日	旧5〔6カ〕月1日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.173	7月8日	旧6月2日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.174	7月9日	旧6月3日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.175	7月10日	旧6月4日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.177	7月12日	旧6月6日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.179	7月13日	旧6月7日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.179	7月14日	旧6月8日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.182	7月15日	旧6月9日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 86
p.184	7月16日	旧6月10日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.185	7月19日	旧6月13日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89

p.187	7月20日	旧6月20日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.188	7月21日	旧6月21日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.189	7月22日	旧6月16日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.189	7月23日	旧6月17日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.190	7月24日	旧6月18日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.190	7月26日	旧6月20日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 86
p.190	7月27日	旧6月21日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.191	7月28日	旧6月22日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.193	7月29日	旧6月23日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.195	7月30日	旧6月24日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.195	7月31日	旧6月25日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.196	8月3日	旧6月28日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.197	8月4日	旧6月29日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 85
p.198	8月5日	旧6月30日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 88
p.200	8月6日	旧7月1日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.201	8月7日	旧7月2日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 82
p.201	8月9日	旧7月4日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.201	8月10日	旧7月5日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.203	8月11日	旧7月6日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 85
p.203	8月12日	旧7月7日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 85
p.203	8月13日	旧7月8日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.204	8月14日	旧7月9日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.204	8月16日	旧7月11日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 85
p.206	8月18日	旧7月14 [13カ]日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.208	8月19日	旧7月14日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.209	8月20日	旧7月15日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 82
p.210	8月21日	旧7月16日	(土)	午後雨	午後同	寒暑針	正午 85
p.211	8月23日	旧7月18日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 (原文空白)
p.212	8月24日	旧7月19日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 85
p.213	8月25日	旧7月20日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.214	8月26日	旧7月21日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.215	8月27日	旧7月22日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.217	8月28日	旧7月23日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 86
p.218	8月30日	旧7月25日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.219	8月31日	旧7月26日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87

「沖縄県日誌」明治13年自9月至10月

p.223	9月1日	旧7月27日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
-------	------	--------	-----	-----	-----	-----	-------

p.224	9月2日	旧7月28日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.226	9月3日	旧7月29日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.227	9月6日	旧8月2日	(月)	午前霽	午後晴	寒暑針	正午 86
p.228	9月7日	旧8月3日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.230	9月8日	旧8月4日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.231	9月9日	旧8月5日	(木)	午後晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.233	9月10日	旧8月6日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.234	9月11日	旧8月7日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 84
p.235	9月13日	旧8月9日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.236	9月14日	旧8月10日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.237	9月15日	旧8月11日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 80
p.237	9月16日	旧8月12日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 82
p.238	9月17日	旧8月13日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.239	9月18日	旧8月14日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.239	9月20日	旧8月16日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.240	9月21日	旧8月17日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.241	9月22日	旧8月18日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.242	9月24日	旧8月20日	(金)	午前晴	午後雨	寒暑針	正午 87
p.242	9月25日	旧8月21日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.244	9月27日	旧8月23日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 86
p.245	9月28日	旧8月24日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.246	9月29日	旧8月25日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.246	9月30日	旧8月26日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.247	10月1日	旧8月27日	(金)	午前晴	午後晴	寒暑針	正午 86
p.248	10月2日	旧8月28日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 84
p.249	10月4日	旧9月1日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.250	10月5日	旧9月2日	(火)	午前晴	午後晴	寒暑針	正午 83
p.251	10月6日	旧9月3日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.252	10月7日	旧9月4日	(木)	午前晴	午後晴	寒暑針	正午 86
p.252	10月8日	旧9月5日	(金)	午前晴	午前晴	寒暑針	正午 84
p.253	10月9日	旧9月6日	(土)	午前晴	午前晴	寒暑針	正午 84
p.254	10月10日	旧9月7日	(日)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82
p.254	10月11日	旧9月8日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.256	10月12日	旧9月9日	(火)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 87
p.257	10月13日	旧9月10日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.258	10月14日	旧9月11日	(木)	午前雨	午後晴	寒暑針	正午 86
p.259	10月15日	旧9月12日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.259	10月16日	旧9月13日	(土)	午前霽	午後晴	寒暑針	正午 85
p.259	10月17日	旧9月14日	(日)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 82
p.260	10月18日	旧9月15日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82

p.261	10月19日	旧9月19日	[16力]日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.262	10月20日	旧9月17日		(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.264	10月21日	旧9月18日		(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午82
p.265	10月22日	旧9月19日		(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午82
p.266	10月23日	旧9月20日		(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午76
p.266	10月25日	旧9月22日		(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.267	10月26日	旧9月23日		(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午77
p.268	10月27日	旧9月24日		(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午77
p.271	10月28日	旧9月25日		(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午72
p.272	10月29日	旧9月26日		(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午79
p.273	10月30日	旧9月27日		(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午78
p.273	10月31日	旧9月28日		(日)	午前雨	午後同	寒暑針	正午83

「沖縄県日誌」明治14年自5月至6月

p.277	5月2日	旧4月5日		(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.278	5月3日	旧4月6日		(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.279	5月4日	旧4月7日		(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.280	5月5日	旧4月8日		(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.281	5月6日	旧4月9日		(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.283	5月7日	旧4月10日		(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.283	5月9日	旧4月12日		(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.284	5月10日	旧4月13日		(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午75
p.285	5月11日	旧4月14日		(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午76
p.286	5月12日	旧4月15日		(木)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午76
p.287	5月13日	旧4月16日		(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午81
p.287	5月14日	旧4月17日		(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.287	5月16日	旧4月19日		(月)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午81
p.288	5月17日	旧4月20日		(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午81
p.289	5月18日	旧4月21日		(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午83
p.290	5月19日	旧4月22日		(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.291	5月20日	旧4月23日		(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.292	5月21日	旧4月24日		(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.292	5月23日	旧4月26日		(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.293	5月24日	旧4月27日		(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午77
p.294	5月25日	旧4月28日		(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午72
p.294	5月26日	旧4月29日		(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午78
p.296	5月27日	旧4月30日		(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午81
p.297	5月28日	旧5月1日		(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午77

Ⅲ-1 「沖繩県日誌」

p.298	5月30日	旧5月3日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 77
p.299	5月31日	旧5月4日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.299	6月1日	旧5月5日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 67
p.300	6月2日	旧5月6日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 77
p.302	6月3日	旧5月7日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 80
p.302	6月4日	旧5月8日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 79
p.302	6月6日	旧5月10日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.304	6月7日	旧5月11日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.308	6月8日	旧5月12日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.309	6月9日	旧5月13日	(木)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午 83
p.310	6月11日	旧5月15日	(土)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 84
p.311	6月13日	旧5月17日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.311	6月14日	旧5月18日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.312	6月15日	旧5月19日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.312	6月16日	旧5月16〔20カ〕日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.312	6月17日	旧5月21日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.313	6月18日	旧5月22日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.317	6月21日	旧5月25日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.317	6月22日	旧5月26日	(水)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 88
p.318	6月23日	旧5月27日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.319	6月24日	旧5月28日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.319	6月25日	旧5月29日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.320	6月27日	旧6月2日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.321	6月28日	旧6月3日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.323	6月29日	旧6月4日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.324	6月30日	旧6月5日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88

「沖繩県日誌」明治14年自7月至8月

p.327	7月1日	旧6月6日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.328	7月4日	旧6月9日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.329	7月5日	旧6月10日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.329	7月6日	旧6月11日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.329	7月7日	旧6月12日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.329	7月8日	旧6月13日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.330	7月9日	旧6月14日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.332	7月11日	旧6月16日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.333	7月12日	旧6月17日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 91
p.333	7月13日	旧6月18日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90

p.334	7月14日	旧6月19日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午85
p.334	7月15日	旧6月20日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午85
p.334	7月16日	旧6月21日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午86
p.335	7月18日	旧6月23日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.336	7月19日	旧6月24日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.338	7月20日	旧6月25日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.339	7月21日	旧6月26日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.339	7月22日	旧6月27日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.340	7月23日	旧6月28日	(土)	午前雨	午後晴	寒暑針	正午89
p.341	7月26日	旧7月1日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.341	7月27日	旧7月2日	(水)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午89
p.342	7月28日	旧7月3日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.342	7月29日	旧7月4日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午91
p.342	8月1日	旧7月7日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午91
p.343	8月3日	旧7月9日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午84
p.343	8月4日	旧7月10日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午82
p.344	8月5日	旧7月11日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86
p.345	8月6日	旧7月12日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.345	8月8日	旧7月14日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.346	8月9日	旧7月15日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.347	8月10日	旧7月16日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.349	8月12日	旧7月18日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.349	8月13日	旧7月19日	(土)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午88
p.352	8月15日	旧7月21日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午87
p.353	8月16日	旧7月22日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午86
p.354	8月18日	旧7月24日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.354	8月19日	旧7月25日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.355	8月20日	旧7月26日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86
p.356	8月22日	旧7月28日	(月)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午89
p.356	8月24日	旧7月30日	(水)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午89
p.356	8月25日	旧閏7月1日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.357	8月26日	旧閏7月2日	(金)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午88
p.357	8月27日	旧閏7月3日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午86
p.357	8月29日	旧閏7月5日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午82
p.358	8月30日	旧閏7月6日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.358	8月31日	旧閏7月7日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88

「沖縄県日誌」明治14年自9月至10月

p.363	9月1日	旧閏7月8日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.364	9月2日	旧閏7月9日	(金)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午89
p.364	9月3日	旧閏7月10日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.364	9月5日	旧閏7月12日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.366	9月6日	旧閏7月13日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.368	9月7日	旧閏7月14日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.369	9月8日	旧閏7月15日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.369	9月9日	旧閏7月16日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.370	9月10日	旧閏7月17日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.370	9月12日	旧閏7月19日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午85
p.370	9月13日	旧閏7月20日	(火)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午87
p.371	9月14日	旧閏7月21日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.373	9月15日	旧閏7月22日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.374	9月16日	旧閏7月23日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.375	9月17日	旧閏7月24日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.376	9月19日	旧閏7月26日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.378	9月20日	旧閏7月27日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89
p.378	9月21日	旧閏7月28日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午90
p.379	9月22日	旧閏7月29日	(木)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午84
p.380	9月23日	旧8月1日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午87
p.380	9月24日	旧8月2日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午81
p.381	9月26日	旧8月4日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.383	9月27日	旧8月5日	(火)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午82
p.384	9月28日	旧8月6日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午83
p.385	9月29日	旧8月7日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.385	9月30日	旧8月8日	(金)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午78
p.389	10月1日	旧8月9日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午80
p.390	10月3日	旧8月11日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午80
p.394	10月4日	旧8月12日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午84
p.395	10月5日	旧8月13日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午84
p.396	10月6日	旧8月14日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午88
p.396	10月7日	旧8月15日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86
p.397	10月8日	旧8月16日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.397	10月10日	旧8月18日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86
p.399	10月11日	旧8月19日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86
p.399	10月12日	旧8月20日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午85
p.400	10月13日	旧8月21日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午87
p.401	10月14日	旧8月22日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午86
p.402	10月15日	旧8月23日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午86
p.402	10月17日	旧8月25日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午86

p.402	10月18日	旧8月26日	(火)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 81
p.404	10月19日	旧8月27日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 78
p.405	10月20日	旧8月28日	(水〔木力〕)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.406	10月21日	旧8月29日	(金)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午 78
p.407	10月22日	旧8月30日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.407	10月24日	旧9月2日	(月)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 84
p.408	10月25日	旧9月3日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.409	10月26日	旧9月4日	(水)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午 80
p.410	10月27日	旧9月5日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 81
p.412	10月28日	旧9月6日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 80
p.412	10月29日	旧9月7日	(土)	午前曇	午後同		
p.413	10月31日	旧9月9日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 76

「沖縄県日誌」明治14年自11月至12月

p.417	11月1日	旧9月10日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.418	11月2日	旧9月11日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.418	11月3日	旧9月12日	(木)	午前晴	午後雨	寒暑針	正午 76
p.418	11月4日	旧9月13日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.419	11月5日	旧9月14日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.421	11月7日	旧9月16日	(月)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午 75
p.422	11月8日	旧9月17日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 79
p.424	11月9日	旧9月18日	(水)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午 79
p.424	11月10日	旧9月19日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 83
p.426	11月11日	旧9月20日	(金)	午前雨	午後晴	寒暑針	正午 83
p.427	11月12日	旧9月21日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 77
p.428	11月14日	旧9月23日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 74
p.428	11月15日	旧9月24日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 75
p.429	11月16日	旧9月25日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 75
p.431	11月17日	旧9月26日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 76
p.431	11月18日	旧9月27日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 77
p.432	11月19日	旧9月28日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.432	11月21日	旧9月30日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 67
p.434	11月22日	旧10月1日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 69
p.436	11月24日	旧10月3日	(木)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午 71
p.437	11月25日	旧10月4日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 68
p.438	11月26日	旧10月5日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 71
p.440	11月28日	旧10月7日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.441	11月29日	旧10月8日	(火)	午前晴	午後雨	寒暑針	正午 79

III-1 「沖繩県日誌」

p.441	11月30日	旧10月9日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.442	12月1日	旧10月10日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午76
p.443	12月2日	旧10月11日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午82
p.443	12月3日	旧10月12日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午84
p.444	12月5日	旧10月14日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午79
p.445	12月6日	旧10月15日	(火)	午前曇	午後晴	寒暑針	正午76
p.446	12月7日	旧10月16日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.447	12月8日	旧10月17日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午71
p.448	12月9日	旧10月18日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午60
p.449	12月10日	旧10月19日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午70
p.451	12月12日	旧10月21日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午78
p.452	12月13日	旧10月22日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午74
p.452	12月14日	旧10月23日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午70
p.454	12月15日	旧10月24日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午72
p.456	12月16日	旧10月25日	(金)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午72
p.456	12月17日	旧10月26日	(土)	午前雨	午後晴	寒暑針	正午68
p.457	12月19日	旧10月28日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午65
p.458	12月20日	旧10月29日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午71
p.459	12月22日	旧11月2日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午77
p.460	12月23日	旧11月3日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午69
p.462	12月24日	旧11月4日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午63
p.464	12月26日	旧11月6日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.466	12月27日	旧11月7日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午72
p.467	12月28日	旧11月8日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午67

「沖繩県日誌」 明治15年1月

p.473	1月1日	旧11月12日	(日)	午前曇	午後同	寒暑針	正午65
p.473	1月2日	旧11月13日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午72
p.473	1月3日	旧11月14日	(火)	午前曇	午後雨	寒暑針	正午71
p.473	1月4日	旧11月15日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.473	1月5日	旧11月16日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午70
p.473	1月6日	旧11月17日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午71
p.474	1月7日	旧11月18日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午73
p.475	1月9日	旧11月20日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午61
p.477	1月10日	旧11月21日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午63
p.478	1月11日	旧11月22日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午62
p.478	1月12日	旧11月23日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午64
p.480	1月14日	旧11月25日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午64

p.481	1月16日	旧11月27日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 69
p.482	1月17日	旧11月28日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 72
p.483	1月18日	旧11月29日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 72
p.484	1月19日	旧11月30日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 70
p.484	1月20日	旧12月1日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 70
p.486	1月21日	旧12月2日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 72
p.487	1月23日	旧12月4日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 70
p.489	1月24日	旧12月5日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 75
p.490	1月25日	旧12月6日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.490	1月26日	旧12月7日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 77
p.492	1月27日	旧12月8日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 67
p.493	1月28日	旧12月9日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 69
p.495	1月29日	旧12月10日	(日)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 74
p.496	1月30日	旧12月11日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 74
p.496	1月31日	旧12月12日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86

「沖縄県日誌」明治15年2月

p.501	2月1日	旧12月13日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 76
p.502	2月2日	旧12月14日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 74
p.503	2月3日	旧12月15日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 75
p.503	2月6日	旧12月18日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 63
p.504	2月7日	旧12月19日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 64
p.504	2月8日	旧12月20日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 66
p.505	2月9日	旧12月21日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 66
p.505	2月10日	旧12月22日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 67
p.506	2月11日	旧12月23日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 68
p.506	2月13日	旧12月25日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 66
p.506	2月14日	旧12月26日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 68
p.510	2月15日	旧12月27日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 73
p.511	2月16日	旧12月28日	(木)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 73
p.513	2月17日	旧12月29日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 70
p.514	2月18日	旧正月元日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 70
p.515	2月20日	旧正月3日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 70
p.515	2月21日	旧正月4日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 70
p.516	2月22日	旧正月5日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 58
p.517	2月23日	旧正月6日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 59
p.519	2月24日	旧正月7日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 62
p.520	2月27日	旧正月10日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 69

Ⅲ-1 「沖繩県日誌」

p.521 2月28日 旧正月11日 (火) 午前晴 午後同 寒暑針 正午74

「沖繩県日誌」明治15年3月

p.525 3月1日 旧正月12日 (水) 午前晴 午後同 寒暑針 正午75
 p.527 3月2日 旧正月13日 (木) 午前晴 午後同 寒暑針 正午75
 p.528 3月3日 旧正月14日 (金) 午前雨 午後同 寒暑針 正午70
 p.530 3月6日 旧正月17日 (月) 午前雨 午後同 寒暑針 正午64
 p.531 3月7日 旧正月18日 (火) 午前晴 午後同 寒暑針 正午70
 p.532 3月8日 旧正月19日 (水) 午前曇 午後同 寒暑針 正午70
 p.534 3月9日 旧正月20日 (木) 午前雨 午後同 寒暑針 正午68
 p.537 3月10日 旧正月21日 (金) 午前晴 午後同 寒暑針 正午69
 p.538 3月11日 旧正月22日 (土) 午前晴 午後同 寒暑針 正午68
 p.539 3月13日 旧正月24日 (月) 午前晴 午後同 寒暑針 正午66
 p.540 3月14日 旧正月25日 (火) 午前晴 午後同 寒暑針 正午69
 p.540 3月15日 旧正月26日 (水) 午前晴 午後曇 寒暑針 正午68
 p.541 3月16日 旧正月27日 (木) 午前晴 午後同 寒暑針 正午67
 p.541 3月17日 旧正月28日 (金) 午前晴 午後同 寒暑針 正午72
 p.542 3月18日 旧正月29日 (土) 午前晴 午後同 寒暑針 正午72
 p.542 3月20日 旧2月2日 (月) 午前晴 午後同 寒暑針 正午74
 p.542 3月22日 旧2月4日 (水) 午前晴 午後同 寒暑針 正午63
 p.543 3月23日 旧2月5日 (木) 午前晴 午後同 寒暑針 正午60
 p.543 3月24日 旧2月6日 (金) 午前晴 午後同 寒暑針 正午64
 p.544 3月25日 旧2月7日 (土) 午前曇 午後晴 寒暑針 正午71
 p.544 3月27日 旧2月9日 (月) 午前曇 午後同 寒暑針 正午62
 p.545 3月28日 旧2月10日 (火) 午前曇 午後同 寒暑針 正午66
 p.545 3月29日 旧2月11日 (水) 午前晴 午後同 寒暑針 正午74
 p.546 3月30日 旧2月12日 (木) 午前晴 午後同 寒暑針 正午77

「沖繩県日誌」明治15年4月

p.551 4月1日 旧2月14日 (土) 午前曇 午後同 寒暑針 正午72
 p.551 4月3日 旧2月16日 (月) 午前曇 午後同 寒暑針 正午78
 p.551 4月4日 旧2月17日 (火) 午前晴 午後同 寒暑針 正午82
 p.552 4月5日 旧2月18日 (水) 午前曇 午後同 寒暑針 正午68
 p.553 4月6日 旧2月19日 (木) 午前雨 午後曇 寒暑針 正午67
 p.553 4月7日 旧2月20日 (金) 午前晴 午後同 寒暑針 正午71
 p.554 4月8日 旧2月21日 (土) 午前晴 午後同 寒暑針 正午77

p.555	4月9日	旧2月23日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.558	4月11日	旧2月24日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82
p.559	4月12日	旧2月23〔25カ〕日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82
p.560	4月13日	旧2月26日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 75
p.561	4月14日	旧2月27日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 69
p.562	4月15日	旧2月28日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 71
p.562	4月17日	旧2月30日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 73
p.564	4月18日	旧3月1日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 75
p.564	4月19日	旧3月2日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 74
p.564	4月20日	旧3月3日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 76
p.566	4月21日	旧3月4日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 80
p.566	4月24日	旧3月7日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.566	4月25日	旧3月8日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.566	4月26日	旧3月9日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.567	4月27日	旧3月10日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 79
p.568	4月28日	旧3月11日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 75
p.570	4月29日	旧3月12日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 77

「沖繩県日誌」明治15年5月

p.573	5月1日	旧3月14日	(月)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 74
p.574	5月2日	旧3月15日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 76
p.575	5月3日	旧3月16日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.575	5月4日	旧3月17日	(木)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午 82
p.575	5月5日	旧3月18日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.577	5月6日	旧3月19日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 76
p.578	5月8日	旧3月21日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.578	5月9日	旧3月22日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.578	5月10日	旧3月23日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.578	5月11日	旧3月24日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 82
p.579	5月12日	旧3月25日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 81
p.580	5月13日	旧3月26日	(土)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 79
p.580	5月15日	旧3月28日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.583	5月16日	旧3月29日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.584	5月17日	旧4月1日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 83
p.584	5月18日	旧4月2日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 77
p.585	5月19日	旧4月3日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.587	5月20日	旧4月4日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 9(ママ)
p.587	5月22日	旧4月6日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 79
p.588	5月23日	旧4月7日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80

Ⅲ-1 「沖繩県日誌」

p.588	5月24日	旧4月8日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 78
p.589	5月25日	旧4月9日	(木)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 81
p.590	5月26日	旧4月10日	(金)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 87
p.591	5月27日	旧4月11日	(土)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 78
p.592	5月29日	旧4月13日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 77
p.592	5月30日	旧4月14日	(火)	午前雨	午後晴	寒暑針	正午 75
p.592	5月31日	旧4月15日	(水)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 78

「沖繩県日誌」明治15年6月

p.595	6月1日	旧4月16日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.595	6月2日	旧4月17日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.595	6月3日	旧4月18日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 83
p.596	6月5日	旧4月20日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 79
p.596	6月6日	旧4月21日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 80
p.597	6月7日	旧4月22日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81
p.597	6月9日	旧4月24日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.597	6月12日	旧4月27日	(月)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 84
p.598	6月13日	旧4月28日	(火)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 80
p.598	6月14日	旧4月29日	(水)	午前雨	午後同	寒暑針	正午 79
p.598	6月15日	旧4月30日	(木)	午前雨	午後曇	寒暑針	正午 79
p.599	6月16日	旧5月1日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85
p.599	6月17日	旧5月2日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86
p.599	6月19日	旧5月4日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.600	6月21日	旧5月6日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.601	6月22日	旧5月7日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.601	6月23日	旧5月8日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.602	6月24日	旧5月9日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.605	6月26日	旧5月11日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.606	6月27日	旧5月12日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
p.606	6月28日	旧5月13日	(水)	午前晴	午後晴	寒暑針	正午 89
p.606	6月30日	旧5月15日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88

「沖繩県日誌」明治15年自7月至8月

p.609	7月3日	旧5月18日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 強
p.609	7月4日	旧5月19日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88

p.609	7月6日	旧5月21日	(水)	午前8時大雨驟雨頃刻晴	午後同	寒暑針	正午 87
p.610	7月8日	旧5月23日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	89 強
p.610	7月11日	旧5月26日	(水)	午前微雨	午後晴	寒暑針	(欠)
p.610	7月12日	旧5月27日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	90
p.610	7月14日	旧5月29日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	90
p.610	7月17日	旧6月3日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	90
p.611	7月19日	旧6月5日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.611	7月20日	旧6月6日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88
p.611	7月21日	旧6月7日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.612	7月22日	旧6月8日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90
p.613	7月24日	旧6月10日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	正午(欠)
p.613	7月25日	旧6月11日	(火)	午前地震	午後晴	寒暑針	90
p.613	7月27日	旧6月13日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	89 強
p.613	8月1日	旧6月18日	(火)	午前陰	午後同	大風 寒暑針	86
p.614	8月3日	旧6月20日	(木)	午前晴	午後同	風 寒暑針	86 強
p.614	8月5日	旧6月22日	(土)	午前風雨	午後同	寒暑針	81
p.614	8月7日	旧6月24日	(月)	午前	午後(欠)	寒暑針	正午 89
p.614	8月8日	旧6月25日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	88
p.615	8月10日	旧6月27日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	86
p.615	8月11日	旧6月28日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	85
p.615	8月12日	旧6月29日	(土)	午前風雨	午後陰	寒暑針	86
p.615	8月13日	旧6月30日	(日)	午前雨	午後陰	寒暑針	85
p.615	8月14日	旧7月1日	(月)	午前陰	午後同	寒暑針	85 強
p.615	8月16日	旧7月3日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	正 85
p.616	8月17日	旧7月4日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 84
p.616	8月18日	旧7月5日	(金)	午前曇	午後同	寒暑針	正午 84
p.616	8月22日		(火)	午前陰	午後同	寒暖計	85 度
p.617	8月23日		(水)	午前陰	午後雨	寒暖計	84 度
p.617	8月24日		(木)	午前晴	午後同	寒暖計	88 度
p.617	8月26日		(土)	午前晴	午後同	寒暖計	88 度
p.618	8月27日		(日)	午前晴	午後同	寒暖計	86 度
p.618	8月28日		(月)	午前晴	午後同	寒暖計	87 度
p.618	8月30日		(水)	午前晴	午後同	寒暖計	87 度
p.618	8月31日		(木)	午前晴	午後同	寒暖計	89 度

「沖繩県日誌」明治 15 年自 9 月至 10 月

p.621	9月1日	旧7月19日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89
-------	------	--------	-----	-----	-----	-----	-------

III-1 「沖繩県日誌」

p.622	9月5日	旧7月23日	(火)	午前曇	午後同	寒暑針	正午86度
p.622	9月7日		(木)	午前晴	午後	寒暑針	正午88度
p.623	9月9日		(土)	午前晴	午後同	寒暑針	正午89度
p.623	9月11日		(月)	午前陰	午後同	寒暑針	正午86度
p.623	9月12日		(火)	午前陰	午後同	烈風 寒暑針	87度
p.623	9月14日		(木)	午前晴	午後(欠)	寒暑針	86度強
p.624	9月15日		(金)	午前晴	午後	寒暑針	83度
p.624	9月16日		(土)	午前陰	午後同	寒暖計	79度
p.624	9月18日		(月)	午前晴	午後同	寒暖計	86度強
p.625	9月19日		(火)	午前晴	午後同	寒暖計	86度強
p.625	9月20日		(水)	午前晴	午後同	寒暖計	86度
p.625	9月21日		(木)	午前陰	午後雨	寒暑計	83度
p.626	9月22日		(金)	午前陰	午後同	寒暖計	85度
p.627	9月23日		(土)	午前晴	午後同	寒暖計	87度
p.627	9月25日		(月)	午前晴	午後同	寒暖計	86度
p.627	9月28日		(木)	午前晴	午後同	寒暖計	88度強
p.627	9月30日		(土)	午前陰	午後	寒暖計	85度
p.628	10月1日		(日)	午前陰	午後晴	寒暖計	82度
p.628	10月3日		(火)	午前晴	午後同	寒暖計	84度
p.628	10月5日		(木)	午前風雨	午後晴	寒暖計	86度
p.628	10月6日		(金)	午前陰	午後同	寒暖計	86度
p.629	10月7日		(土)	午前風雨	午後同	寒暖計	82度
p.630	10月10日		(火)	午前陰	午後晴	寒暑計	82度
p.630	10月11日		(水)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.631	10月12日		(木)	午前晴	午後同	寒暑計	82度
p.631	10月15日		(日)	午前晴	午後同	寒暑計	76度
p.631	10月16日		(月)	午前晴	午後同	寒暑計	82度
p.631	10月17日		(火)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.631	10月18日		(水)	午前晴	午後同	寒暑計	82度強
p.631	10月21日		(土)	午前晴	午後同	寒暖計	84度
p.632	10月24日		(火)	午前陰	午後同	寒暑計	79度
p.632	10月25日		(水)	午前晴	午後同	寒暑計	80度
p.632	10月26日		(木)	午前晴	午後同	寒暑計	82度
p.634	10月27日		(金)	午前晴	午後同	寒暑計	82度
p.634	10月28日		(土)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.635	10月30日		(月)	午前晴	午後同	寒暑計	82度
p.635	10月31日		(火)	午前晴	午後同	寒暑計	82度

「沖繩県日誌」明治15年自11月至12月

p.639	11月2日	(木)	午前陰	午後同	寒暑計	81度
p.639	11月3日	(金)	午前晴	午後同	寒暑計	80度
p.639	11月4日	(土)	午前晴	午後同	寒暑計	79度
p.639	11月6日	(月)	午前細雨	午後同	寒暑計	77度
p.639	11月7日	(火)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.639	11月8日	(水)	午前晴	午後同	寒暑計	76度
p.639	11月9日	(木)	午前晴	午後同	寒暑計	79度
p.640	11月10日	(金)	午前陰	午後同	寒暑計	76度
p.640	11月11日	(土)	午前雨	午後同	寒暑計	78度
p.640	11月13日	(月)	午前雨	午後同	寒暑計	81度
p.641	11月14日	(火)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.642	11月15日	(水)	午前晴	午後同	寒暑計	83度
p.645	11月16日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	83度
p.645	11月20日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	78度
p.645	11月21日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	78度
p.645	11月22日	(水)	午前陰	午後同	寒暑針	81度
p.646	11月23日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	80度
p.646	11月24日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	82度
p.646	11月25日	(土)	午前細雨	午後同	寒暑針	76度
p.646	11月27日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	72度
p.646	11月29日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	72度強
p.647	11月30日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	71度
p.647	12月1日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	72度
p.647	12月2日	(土)	午前陰	午後雨	寒暑針	77度
p.648	12月3日	(日)	午前晴	午後同	寒暑針	76度
p.648	12月4日	(月)	午前晴	午後同	寒暑針	80度
p.648	12月5日	(火)	午前晴	午後同	寒暑針	79度
p.649	12月6日	(水)	午前晴	午後同	寒暑針	76度
p.649	12月7日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	78度
p.649	12月8日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	77度
p.650	12月9日	(土)	午前陰	午後同	寒暑針	75度
p.650	12月11日	(月)	午前陰	午後同	寒暑針	80度
p.650	12月12日	(火)	午前風雨	午後同	寒暑針	70度強
p.651	12月13日	(水)	午前陰	午後同	寒暑針	65度
p.651	12月14日	(木)	午前晴	午後同	寒暑針	68度
p.651	12月15日	(金)	午前晴	午後同	寒暑針	77度強
p.651	12月16日	(土)	午前陰	午後同	寒暑針	71度
p.651	12月18日	(月)	午前陰	午後同	寒暑針	68度
p.652	12月19日	(火)	午前陰	午後同	寒暑針	70度

III-1 「沖繩県日誌」

p.654	12月20日	(水)	午前陰	午後同	寒暑針	66度
p.654	12月21日	(木)	午前陰	午後同	寒暑針	66度
p.654	12月22日	(金)	午前陰	午後同	寒暑針	66度
p.655	12月23日	(土)	午前晴	午後同	寒暑針	65度
p.655	12月26日	(火)	午前微雨	午後同	寒暑針	70度
p.655	12月28日	(木)	午前陰	午後晴	寒暑針	61度
p.655	12月31日	(日)	午前陰	午後同	寒暑針	68度

「沖繩県日誌」明治16年自1月至2月

p.659	1月1日	北風	陰雨	寒暑針	正午	66度
p.659	1月4日		陰	寒暑針	正午	69度
p.659	1月9日		晴	寒暑針	正午	71度強
p.659	1月10日		晴 午後地小震	寒暑針	正午	75度
p.659	1月11日		朗晴	寒暑針	正午	71度
p.659	1月13日		陰	寒暑針	正午	72度強
p.659	1月14日		陰	寒暑針	正午	68度
p.660	1月15日		晴	寒暑針	正午	70度
p.660	1月16日		晴	寒暑針	正午	70度
p.660	1月17日		晴 北風	寒暑針	正午	70度
p.661	1月19日		晴	寒暑針	正午	65度
p.661	1月20日		晴	寒暑針	正午	65度
p.662	1月22日		半晴 半陰	寒暑針	正午	71度
p.662	1月23日		晴	寒暑針	正午	74度
p.662	1月24日		晴	寒暑針	正午	78度
p.662	1月25日		晴	寒暑針	正午	78度強
p.663	1月27日		半陰 半晴	寒暑針	正午	70度
p.663	1月29日		陰 午後風雨	寒暑針	正午	73度
p.664	1月30日		雨	寒暑針	正午	70度強
p.664	1月31日		陰	寒暑針	正午	68度
p.664	2月1日		半晴	寒暑針	正午	71度
p.664	2月2日		雨	寒暑針	正午	66度
p.665	2月5日		半晴	寒暑針	正午	64度
p.665	2月7日		南風 斜雨	寒暑針	正午	70度強
p.665	2月8日		半晴	寒暑針	正午	64度強
p.665	2月9日		全晴	寒暑針	正午	64度強
p.666	2月11日		晴	寒暑針	正午	68度強
p.666	2月12日		陰	寒暑針	正午	66度
p.667	2月13日		晴 東風	寒暑針	正午	72度

p.667 2月14日	陰	東風	寒暑針	正午 74 度
p.667 2月15日	陰	東風	寒暑針	正午 74 度強
p.668 2月16日	陰		寒暑針	正午 77 度強
p.668 2月17日	陰		寒暑針	正午 70 度強
p.668 2月19日	陰		寒暑針	正午 75 度強
p.669 2月20日	全晴		寒暑針	正午 74 度
p.669 2月21日	晴		寒暑針	正午 75 度強
p.669 2月22日	晴		寒暑針	正午 76 度
p.669 2月23日	全晴		寒暑針	正午 77 度
p.670 2月24日	雨		寒暑針	正午 69 度強
p.670 2月26日	細雨		寒暑針	正午 66 度

「沖繩県日誌」明治 16 年自 3 月至 4 月

p.673 3月1日	晴	南風	寒暑針	正午 76 度
p.673 3月2日	晴		寒暑針	正午 78 度
p.673 3月3日	陰		寒暑針	正午 78 度強
p.673 3月5日	陰		寒暑針	正午 67 度強
p.674 3月7日	陰		寒暑針	正午 68 度
p.674 3月8日	半晴		寒暑針	正午 72 度強
p.674 3月9日	快晴		寒暑針	正午 70 度
p.674 3月10日	陰		寒暑針	正午 68 度
p.675 3月12日	半晴		寒暑針	正午 74 度
p.675 3月13日	陰		寒暑針	正午 69 度強
p.676 3月14日	雨		寒暑針	正午 69 度
p.676 3月15日	細雨		寒暑針	正午 67 度強
p.676 3月16日	半晴		寒暑針	正午 61 度
p.678 3月17日	晴		寒暑針	正午 64 度
p.678 3月19日	細雨		寒暑針	正午 76 度
p.680 3月20日	雨		寒暑針	正午 69 度
p.681 3月21日	晴		寒暑針	正午 75 度
p.682 3月22日	晴		寒暑針	正午 72 度
p.682 3月23日	陰		寒暑針	正午 72 度
p.682 3月24日	細雨		寒暑針	正午 73 度
p.683 3月26日	晴	午前地小震	寒暑針	正午 71 度
p.683 3月27日	半晴		寒暑針	正午 71 度強
p.683 3月28日	陰		寒暑針	正午 75 度
p.683 3月29日	半晴		寒暑針	正午 69 度
p.684 3月30日	晴		寒暑針	正午 71 度強

p.684	3月31日	陰	寒暑針	正午 71 度
p.684	4月2日	陰	寒暑針	正午 74 度
p.685	4月3日	午前雨 午後陰	寒暑針	正午 72 度
p.685	4月4日	午前陰大風 午後同	寒暑針	正午 74 度
p.685	4月7日	午前晴 午後晴	寒暑針	正午 74 度
p.685	4月9日	午前陰 午後雨	寒暑針	正午 72 度
p.685	4月10日	午前風雨 午後風	寒暑針	正午 76 度
p.685	4月12日	午前晴 午後晴	寒暑針	正午 76 度
p.686	4月13日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 79 度強
p.686	4月14日	午前陰 午後同	寒暑針	正午 81 度
p.687	4月16日	午前・午後 晴	寒暑針	正午 73 度
p.687	4月17日	午前陰 午後半晴	寒暑針	正午 74 度
p.688	4月18日	午前陰 午後細雨時至	寒暑針	正午 78 度
p.688	4月24日	午前雨 午後陰	寒暑針	正午 80 度
p.688	4月25日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 81 度
p.689	4月26日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 83 度
p.689	4月27日	午前・午後 晴	寒暑針	正午 83 度
p.689	4月28日	午前・午後 晴	寒暑針	正午 84 度
p.690	4月30日	午前雨 午後晴	寒暑針	正午 83 度

「沖繩県日誌」明治 16 年自 5 月至 6 月

p.693	5月1日	午前晴 午後陰	寒暑針	正午 82 度
p.693	5月3日	午前曇 午後同	寒暑針	正午 80 度
p.693	5月4日	午前曇 午後同	寒暑針	正午 72 度
p.693	5月5日	午前陰 午後同	寒暑針	正午 72 度
p.694	5月7日	午前陰 午後同	寒暑針	正午 71 度
p.694	5月8日	午前陰 午後同	寒暑針	正午 78 度
p.694	5月9日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 83 度
p.695	5月10日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 84 度
p.695	5月11日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 85 度
p.696	5月12日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 86 度
p.696	5月14日	午前・午後 晴	寒暑針	正午 86 度
p.697	5月15日	午前晴 午後同	寒暑針	正午 87 度
p.697	5月16日	午前・午後 晴	寒暑針	正午 87 度
p.697	5月17日	午前曇 午後雨	寒暑針	正午 77 度
p.697	5月18日	午前晴 午後曇	寒暑針	正午 80 度
p.698	5月21日	午前雨 午後同	寒暑針	正午 83 度
p.698	5月22日	午前曇 午後同	寒暑針	正午 82 度

p.699 5月23日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 83 度
p.699 5月24日	午前半晴	午後晴	寒暑針	正午 82 度
p.699 5月25日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86 度
p.700 5月26日	午前曇	午後同	寒暑針	正午 74 度
p.700 5月27日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 76 度
p.700 5月28日	午前曇	午後雨	寒暑針	正午 78 度
p.701 5月29日	午前雨	午後同	寒暑針	正午 74 度
p.701 5月30日	午前晴	午後半晴	寒暑針	正午 78 度
p.701 5月31日	午前半晴	午後同	寒暑針	正午 80 度
p.703 6月2日	午前曇	午後同	寒暑針	正午 78 度
p.703 6月4日	午前・午後	陰	寒暑針	正午 83 度
p.703 6月5日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85 度
p.704 6月7日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81 度
p.704 6月8日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 81 度
p.704 6月9日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 83 度
p.705 6月11日	午前曇	午後同	寒暑針	正午 76 度
p.705 6月12日	午前雨	午後同	寒暑針	正午 78 度
p.706 6月13日	午前大風雨	午後同	寒暑針	正午 76 度
p.706 6月14日	午前雨	午後同	寒暑針	正午 81 度
p.707 6月15日	午前曇	午後同	寒暑針	正午 83 度
p.707 6月16日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 85 度
p.708 6月18日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 86 度
p.709 6月19日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 87 度
p.710 6月20日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88 度
p.710 6月21日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88 度
p.710 6月22日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88 度
p.711 6月23日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 度
p.713 6月24日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 度
p.715 6月25日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 度
p.715 6月26日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 度
p.715 6月28日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 88 度
p.715 6月29日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 89 度
p.716 6月30日	午前晴	午後同	寒暑針	正午 90 度

2 「上杉県令沖縄県巡回日誌」

本データベースは、「上杉県令沖縄県巡回日誌」より気象、災害に関する情報を抽出したものである。はじめに気象関係情報を整理し、次に上杉茂憲県令が各間切において行った問答より得られた災害情報を整理・要約して記載した。なおテキストは、琉球政府編『沖縄県史 11 上杉県令関係日誌』（琉球政府、1965、国書刊行会にて1989年復刻）を使用した。

○気象関係

「沖縄本島巡回日誌 島尻之部」明治14年11月

- p.3 11月8日 「微雨、朝寒暑針八十五度」
- p.5 11月9日 兼城番所医分局、「曇、朝寒暑計八十二度」
- p.6 11月10日 喜屋武間切「朝寒暑七十九度、午前九時五分、喜屋武ヲ発ス」
- p.7 11月10日 真壁番所「午後一時二十五分、真壁番所ヲ辞ス、路左ニ折ル、村ヲ離ル一丁余、松竹ノ間を過ルニ、雨滴至ル…（中略）…中座、与座、安里等ノ数村ヲ経ル、雨滴晴ル」
- p.7 11月10日 具志頭番所「是夜風雨定マラス」
- p.7 11月11日 具志頭「11日朝晴、寒暑針七十八度、旭日杲々トシ昇ル、天気晴朗ナリ」
- p.9 11月12日 東風平「晴雨不定、朝寒暑針七十八度」
- p.11 11月13日 佐敷番所「曇、朝寒暑針七十五度」

「沖縄本島巡回日誌 中頭・国頭之部」明治14年11月

- p.15 11月14日 「密雲雨フラス、天色冥々タリ」
- p.16 11月15日 中頭番所、「晴、朝冷氣甚シク、寒暑計六十六度」
- p.18 11月16日 中城番所、「味爽ヨリ早起ス、宿雲檐ヲ払ヒ、残月人ニ迫ル」
- p.20 11月17日 美里番所、「晴、朝寒暑針六十八度」
- p.22 11月18日 与那城番所、「晴、朝寒暑針七十二度」
- p.24 11月19日 具志川番所、「晴、朝寒暑針、七十一度」
- p.26 11月20日 金武番所、「朝曇天、寒暑針七十七度」
- p.28 11月21日 久志番所、「晴、朝寒暑針七十七度」
- p.29 11月22日 羽地国頭役所、「曇天、寒暑針七十度」
- p.32 11月23日 大宜味番所、「晴、朝寒暑針六十八度」

「沖縄本島巡回日誌 国頭郡之部」明治14年11月

- p.35 11月24日 国頭番所、「曇、朝寒暑針六十五度」
p.37 11月25日 奥村金城親安の家、「晴、朝寒暑針六十七度」
p.39 11月26日 安波村、「晴、朝寒暑針六十四度」
p.40 11月27日 国頭番所、「晴、朝寒暑針六十七度」
p.41 11月28日 羽地国頭番所、「寒暑針七十四度」
p.43 11月29日 今帰仁番所、首里警察分署、「晴、朝寒暑六十九度」
p.45 11月30日 本部番所、「晴、朝寒暑針六十八度」
p.48 12月1日 名護番所、「晴、寒暑針六十七度」
p.50 12月2日 恩納番所、「晴朝、寒暑針六十四度」
p.52 12月3日 読谷山番所、「曇、寒暑針七十二度」
p.58 12月4日 浦添番所、「雨、朝寒暑針七十七度」

「先島巡回日誌 久米島之部」明治15年8月

- p.59 7月27日 那覇港、好天が続き、予定より早く「汽船貫効丸」が帰港する。
p.59 7月30日 那覇港、先島行き「汽船貫効丸」が出港する寸前に、暴風雨にあい出港を延期する。数日間は、曇り空が続き、海上の風も強く船の運航が出来なかった。十数日後海上の天気が落ち着く。
p.60 8月16日 那覇港、晴天で「微風」があった。正午寒暑針八十二度。
p.60 8月17日 那覇港、快晴で、風もなく穏やかな天気であった。
久米島役所、この夜は「寒暑針八十五度、終日晴天」
p.62 8月18日 久米島役所、「朝寒暑針八十一度」
p.63 8月18日 仲里間切儀間村、「朝寒暑針八十九度」
p.64 8月18日 この日は一日中晴天であり、海上もかなり平穏であった。

「先島巡回日誌 宮古島之部」明治15年8月

- p.67 8月19日 この夜寒暑針八拾二度、一日中「晴雨」定まらなかった。
p.67 8月20日 朝寒暑針八拾度
p.73 8月20日 夜寒暑針八十度
p.73 8月22(21か)日 朝寒暑針八十一度
p.76 8月22日 朝寒暑針八十一度
p.76 8月22日 正午寒暑針八十四度
p.76 8月22日 この夜寒暑針八十三度
p.77 8月23日 朝寒暑針八十一度
p.77 8月23日 十時四十五分、寒暑針八十九度に上昇する。

「先島巡回日誌 八重山島之部」明治 15 年 8 月

p.86 8 月 24 日 この日時々「細雨」が降っていたが、海上は風がなく特に波が穏やかで航路には差し障りはなかった。

p.86 8 月 24 日 この夜寒暑針八十四度、一日中「陰天」であった。

p.86 8 月 25 日 朝寒暑針八十二度

○上杉県令、問答など

以下のデータは、No. 頁/日にち/場所/項目、内容の順に記している。

「沖縄本島巡回日誌 島尻之部」明治 14 年 11 月

No.1 p.3/11 月 8 日/小禄番所/小禄間切の作物生育状況

当秋からの作物は、二三月から蕃薯の実りが良く、飯料は不足していない。

No.2 p.3/11 月 8 日/小禄番所/台風

「大風」は以前あったが、たいした損害にならず、甘蔗も貢糖の分は、十分収穫できる。

No.3 p.5/11 月 9 日/喜屋武番所/台風の災害

甘蔗は「大風」により損害を被り、蕃薯は海岸の「吠畝」に植えていたが、「怒涛」に「侵凌」され損害を被り、「違作」となった。

No.4 p.6/11 月 10 日/喜屋武/台風対策

道を右におれて行くと、村家の周囲に皆、「密竹」があり、これを「土人」に聞くと、普通は「颶風」を防ぎ、かつ砂糖樽の帯竹を作るために植えていると答えた。

No.5 p.6/11 月 10 日/摩文仁番所/台風時の高潮による被害

海のそばに多くの間切があるため、「猛烈ノ颶風」が起こったときに、「怒涛」が「蕃薯」「甘蔗」の畑に降りかかり、そのため「往々不慮ノ違作」に遭い、以前からの被害が重なり、巨額の負債となり、その額およそ壱万二千元となる。

No.6 p.7/11 月 10 日/具志頭番所/作物の生育状況

蕃薯は例年より不足している。思うに砂糖が高価なため、甘蔗を多く植え、蕃薯を少なく植えているためではないだろうか。

No.7 p.10/11 月 12 日/富里村東風平分署/凶作について

穀物は 2 年も凶作が続き、上納に困ったため、このような大負債に及んだのである。ただ

し、本年の作物は、まずはかなりの出来である。

No.8 p.11/11月12日/佐敷番所/作物の生育状況について

穀物は、本年は「中等」の出来である。蕃薯は各間切と同じで、貢米はおよそ三百石である。当間切は海に近いので、少しの風雨で、潮水があがり、よく「違作」になることがある。

No.9 p.11/11月12日/佐敷番所/負債の原因

凶作のときに、貢納に困り、負債が増えている。また凶作に遭えば、又々負債が増加することになる。

No.10 p.12/11月13日/大里番所/多雨による被害

蕃薯は、「霖雨」により「違作」となる。

No.11 p.12/11月13日/南風原番所/作物の生育状況について

当年の「作並」は通常通りで、甘蔗は「風災」なし。

「沖縄本島巡回日誌 中頭・国頭之部」明治14年11月

No.1 p.15/11月14日/西原番所/作物の生育状況

米穀は、昨年は雨と寒さに害を受け「違作」となった。甘蔗は「作並」は良い。

No.2 p.16/11月14日/中頭役所/作物の生育状況

米は中作、薯は雨に傷み、収穫高が不足している。しかし、食糧不足には至っていない。

No.3 p.16/11月14日/中頭役所/台風、鼠害

甘蔗は少し「風災」にて損害をこうむり、「鼠難」等が前年にはあったが、現在はない。

No.4 p.18/11月15日/中城番所/作物の生育状況

旧藩の時に比べれば、生活は送りやすいが、昨冬より、本年の二三月のころまでは、蕃薯に乏しく、蘇鉄を食べる状態となる。

No.5 p.18/11月15日/中城番所/甘蔗の収穫状況

砂糖の焼高、合計およそ十九万斤、穀物は少し「風災」にあったが、まずは中等ほどの出来である。

No.6 p.19/11月16日/越来番所/作物の生育状況

作物の「作並」は「中作」である。

No.7 p.19/11月16日/越来番所/食糧の供給状況

二三月ごろは薯が不足していたが、現在は食料が足りている。

No.8 p.19/11月16日/越来番所/「貧窶」の状況

「貧窶ノ者」が間切に多く、凶作が原因である。

No.9 p.19/11月16日/美里番所/食糧の供給状況

作物は、二三月ころは、食料不足であったが、現在は供給は足りている状況である。

No.10 p.21/11月17日/勝連番所/作物の生育状況

穀物は、「中作」である。蕃薯は特別の「損耗」なし。綿花は、家々の衣装を製作する分には不足はない。製糖は、総額六万斤である。この間切では「窮乏ノモノ」はなく、村々の生活は送りやすく、「難渋ノ者」はいない。

No.11 p.22/11月17日/与那城番所/所轄内の島々の作物の生育状況

所轄内の島々では、薯、麦、米、豆等を生産し、食糧に不足はないが、平安座は、少々不足している。しかし「漁業ノ利」により畑作を補助している。「高離」、「伊計」の二島は、島中の作物で、自活することができる。

No.12 p.23/11月18日/具志川番所/潮害

作物の収穫は時々潮が吹き上げるにより凶作となる。

No.13 p.23/11月18日/具志川番所/作物の生育状況

蕃薯は三四月ごろは、不足していたが、現在は不足していない。砂糖は、上納高十万斤くらいで、焼過糖は一切ない。

No.14 p.23/11月18日/具志川番所/「霖雨」

蕃薯は、「霖雨」により凶作となる。

No.15 p.23/11月19日/具志川番所/鼠害

鼠害が時々あり、鼠は風に倒れた根を食べる。

No.16 p.25/11月19日/金武番所/作物の生育状況

米と甘蔗の生育状況は例年より良いが、薯が不作で五月、六月より困っていたが、現在は不足はない。

No.17 p.25/11月19日/金武番所/「霖雨」

蕃薯は「霖雨」により不作となる。

No.18 p.27/11月20日/久志番所/作物の生育状況

本年の作物は、「近年中の豊作」である。藍は三千斤で、風にて少し損害が出た。

No.19 p.27/11月20日/久志番所/備蓄状況

備蓄米は村々にあり、県令により少しずつ増やしていくことを一言役人たちに伝えた。

No.20 p.28/11月21日/羽地番所/備蓄状況

「恐慌」のために「儲蓄米」を貯えているが、間切は田畠狭く、麦粟等は多くないが、粃は毎年三十石ほど貯える。現在は去年の飢饉により「官」の許可を得て、村々へ配分したため、今は去年の蘇鉄を食べている。

No.21 p.28/11月21日/羽地番所/「霖雨」と早魃

四五月ころ「霖雨」により、七八月ころは早魃により「違作」となる。

No.22 p.28/11月21日/羽地番所/備蓄食糧の使用状況

「儲蓄米」は飢饉の時だけでなく申し出るものがあれば「扶助」する。

No.23 p.31/11月22日/大宜味番所/食糧事情

蕃薯は三月ころ、他間切と同様に不足するため、粟などを混ぜて食糧とする。例年ならば、食糧は現在「余リアル程」であるが、当年はわずかに食用にあてるくらいなので、冬季になったときにどのように対処するか、思案している。

No.24 p.31/11月22日/大宜味番所/作物の生育状況

当間切の食糧事情の悪化は、「風雨ノ障碍」によるものでもあるが、どういうわけか「違作」となってしまった。米は「中作」であるが、藍は多く生産したので、自家用に当てている。

No.25 p.31/11月22日/大宜味番所/備蓄状況

貯米を貯える場所は、二ヶ所あり、年々粃二十五石ずつ貯えている。

No.26 p.33/11月23日/奥間村国頭番所/作物の生育状況

当年の作物は収穫が良く、米も充分である。しかし、藍は違作である。

No.27 p.33/11月23日/奥間村国頭番所/備荒状況

薯は昨秋から当秋まで不足し、蘇鉄を食べている。当夏からは薯の供給は充分である。

No.28 p.33/11月23日/奥間村国頭番所/餓死状況

各間切中に、四五村は負債が多く、貧困の村がある。その困難な村方では、負債はあるが、飯料には不足していない。

No.29 p.33/11月23日/奥間村国頭番所/伝染病（赤痢）

一昨年「虎列拉病」におよそ五十人位の人々がかかっている。

「沖縄本島巡回日誌 国頭郡之部」明治 14 年 11 月

No.1 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/食糧の供給状況

奥村の蕃薯の供給状況は良好。

No.2 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/備蓄状況

「貯米」の蔵は、辺土、須志（楚州カ）、奥の三ヶ村で一棟を共有している。

No.3 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/備蓄食糧の使用方法

貯え米は「当村ノ産出米」ではなく、正月、七月、祭祀の時に用いるために、それぞれの村が他村より「購求」して、貯えている。また、当村は洪水が多いので、刈ったあと、干して曝すことができないので、直に倉に納める。

No.4 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/備蓄食糧の使用方法

飢饉の時は、役所に申し出て、共有倉を開く。

No.5 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/備蓄食糧の使用方法

蘇鉄は飢饉の年に備えられる量を、確保している。

No.6 p.36/24 日/「奥村金城親安ノ家」/伝染病（赤痢）

一昨年の「虎列拉病」は奥村では流行していない。

No.7 p.37/25 日/「楚州村ノ豪農、大城久安ノ家」/備荒状況

「大城久安ノ家」は門が南に向い、「蠣石牆」で囲み、中を隠す屏を二枚の石で作り、床に関羽の像を掲げ、次の間には、多くの刳俵を備蓄している。

No.8 p.38/25 日/安波村/作物の生育状況

当年の「作並」は、田畑は「上作」である。

No.9 p.38/25 日/安波村/備蓄食糧

「貯蓄米」は、村々で備蓄する。備蓄量は、一石五斗であり、この量は、安田村と合同で備蓄している。この村の備蓄食糧以外に、大概「大農」は三四俵、「細民」は一二俵個人で備蓄している。これらの備蓄食糧は、節句用ではなく、備荒のために備蓄しているが、各自の備蓄食糧は節句用も兼ねている。

No.10 p.39/25 日/安波村/安波川の水害について

安波川は洪水が時々あるが、川幅が広いため、水害はない。

No.11 p.42/28日/今帰仁分署/作物の生育状況

当年の作物は、「米麦薯」は「上作」だが、大豆は不作である。砂糖の産出高額は、二十万斤である。

No.12 p.42/28日/今帰仁分署/台風・風雨による被害

「曩ノ暴風」により損害が出たが、甘蔗は「五六月比」から繁茂している。また、前年の「大風」で甘蔗は多くの損害がでて、「漸次疲弊」し、ついに多くの負債を抱えることになった。

No.13 p.42/28日/今帰仁分署/備荒状況

「儲蓄米」は、皆間切に集めて、貯えてある。昨年と今年のをあわせて六拾石で、そのなかの拾石は粟であり、残りは米である。

No.14 p.42/28日/今帰仁分署/備蓄食糧の使用状況

一昨年の貯米は、今年二三月の飢饉で、役所へ申し出て、配分している。一昨年の貯米は、僅三十石であり、村々に配当してあるが、とても食料の補いにならず、ただ高齢者と幼児への配当とだけなった。

No.15 p.42/28日/今帰仁分署/備蓄食料の運用方法

備蓄米の各村の負担は、「地面高」に応じて割り出す。

No.16 pp.44-45/29日/本部番所/作物の生育状況

田畑の「作並」は、麦は去年より良く、「蕃薯」は二三月より「豊熟」して、飯料は不足していない。

No.17 pp.44-45/29日/本部番所/前年の作物の生育状況

去年、「寒気」が強く、作物の実りが悪く、二三月は、蘇鉄を堀って食べていた。

No.18 pp.44-45/29日/本部番所/砂糖、藍の生産状況

甘蔗は去年より生産状況がよく、藍はかなり出来がいい。製糖の額は十二万斤、藍は拾五万斤になった。

No.19 pp.44-45/29日/本部番所/備荒状況

貯米は村々より間切で取りまとめて、貯えている。

No.20 pp.44-45/29日/本部番所/「貯米」の運用状況

「貯米」は、飢饉の時だけ使用する。当年の二三月に「貯米」二十八石五斗、去年までの分は、村々に配当した。「貯米」は、以前より蘇鉄を食べるようになったら、配当する。

No.21 p.47/30日/名護番所/食糧の供給状況

薯は、二三月頃より、五月まで不足していたので、蘇鉄を食用とした。その後は、わずかに食料が足りない程度である。

No.22 p.47/30日/名護番所/備荒状況

蘇鉄は、本部周辺から「購求」する事がある。製糖は、畑が少なく、砂地であるため、甘蔗を作れば、「飯料」に不足が生じるので行っていない。「貯蓄米」は、村々で合わせて、間切に貯えている。その額二拾石である。

No.23 p.47/30日/名護番所/備蓄食糧の運営方法

以前の「貯蓄米」は、「薯不足」のときに役所に申し出て、配当していた。また「貯米」は、たいした飢饉でなくても、飯料が少なくなって、不足したら配当している。「並作」「豊作」によって、「貯米」の備蓄量は二拾石を保つようにしている。ただし、豊年が続けば、年々増加させるが、近年は「貯米」を出さざるを得ない状況が続いている。

No.24 p.49/12月1日/恩納番所/作物の生育状況

米・藍・薯の「作並」は、米は良く、藍は「中作」、薯は「上作」である。ただし、三月、四月ころは、食料不足により蘇鉄を食べていた。

No.25 p.49/12月1日/恩納番所/備荒状況

蘇鉄は、名護は少ないので他間切から買い入れるが、恩納間切は「マイダ」で蘇鉄を育てているが、それ以外は読谷山から購求する。蘇鉄不足により、恩納間切では、「戸数」に賦課し、一年で一戸につき四十本ずつ植えさせている。

No.26 p.51/12月2日/読谷山番所/食糧の供給状況

今年の三月、四月ころは、他間切の甘薯のできはいまひとつの状況であったが、読谷山間切は出来が良かった。

No.27 p.51/12月2日/読谷山番所/備荒状況

凶年のときに蘇鉄を掘り返して食べた後は、すぐに植えつける。

No.28 p.51/12月2日/読谷山番所/備荒状況

「貯籾」の代わりに、「醸金」して、村方に貸し、その利益を蓄える。「醸金」のさいは、「豊凶」の別なく、毎年粟二十石分の資金を貯める。

No.29 p.53/12月3日/北谷番所/作物の生育状況

甘蔗、薯は去年より良く、米は凶作である。麦は「上作」であるが、「上納」のためには乏しい。

No.30 p.53/12月3日/北谷番所/食糧状況

食料としての薯は不足したが、蘇鉄で少し補った。

No.31 p.53/12月3日/北谷番所/「腥風」の被害

海上から「腥風」が吹き、米が凶作となった。

No.32 p.53/12月3日/北谷番所/備荒状況

「儲蓄」は、旧藩の時は米で蓄えていたが、現在は貨幣で貯めている。

No.33 p.55/12月3日/浦添番所/作物の生育状況

甘蔗と米は良いが、綿はかなりの出来であった。

No.34 p.55/12月3日/浦添番所/食糧の供給状況

薯が二月、三月頃は、薯が不足したため、蘇鉄を食用とした。現在は、食糧が足りていて、売り出すくらいである。

No.35 p.56/12月3日/浦添番所/備荒状況

「貯米」を販売して、金に換えて村の富豪に貸し、利子を取る。「貯米」を換金するのは、米は二、三年たつと鼠がつくからである。

No.36 pp.57-58/12月3日/浦添番所/虎列拉（コレラ）病

先月十八日から今月一日までの間に、美里間切で十名の「虎列拉」患者が発生し、そのうち四人が死亡したという報告が入った。浦添間切と那覇も患者が少人数ながら発生している。

「先島巡回日誌 久米島之部」明治15年8月

No.1 p.61/8月17日/具志川番所/備荒状況

貯蓄米は三十石ずつの「貯米」があり、現在残っているものは、一昨年から貯えたものである。

No.2 p.62/8月17日/比嘉村/「文久年間」の山崩れと「数十年前」の疫病

村の前面に広大な荒地がある。荒地ができた理由として、文久年間の山崩れと、数十年前（文化七十八年および明和天明年間が最も激しかった）の疫病で島人が死亡してしまったからである。

No.3 p.63/8月17日/久米島役所/備荒状況

「貯米」は、毎年五十石ずつ貯め、三年ごとに全て入れ替えする。

「先島巡回日誌 宮古島之部」明治15年8月

No.1 p.69/8月19日/大宜見玄教ノ家/虎列拉(コレラ)病

明治十二年は、宮古島でも「虎列拉病」が流行したため、死亡者の数が最も多い年であった。

No.2 p.70/8月20日/役所/備荒状況

貯蓄米は三千石ほど備えている。貯蓄米は年々新たに入れ換えている。

No.3 pp.75-76/8月22日(21日か)/与那覇村番所/作物の生育状況

その日通った間切・村では「畝圃薯」があり、豆も栽培されていたが、その栽培されている作物は一つとして供給が足りているものはなかった。これは、農民が怠惰なのが原因なのか、それとも田畑を投棄したことが原因なのか、分からない。明治12年に宮古島では「虎列拉病」が流行し、島民の半数が死亡したとの話なので、こうしたことが複合的に関わって農業の衰退を招いたと考えるべきなのだろうが、後ほど識者を交えて原因を検討すべきだろう。

No.4 p.76/8月22日/—/風浪の害

この日、「風浪」が収まらず、その影響で「端船」一艘が荷物を積んだまま流されてしまった。

No.5 p.77/8月23日/島尻村番所/備荒状況

宮古島で植えつけられている蘇鉄のほとんどは「山陰」に植えつけてあり、村の近くの荒原には植えられていない。

No.6 p.78/8月23日/島尻村番所/津波

今から凡そ百年前に津波が起こり、島中の家々が流され、人民も溺死し、「島中伝来の書類或は宝蔵物」が皆流されてしまった。そのため、それ以前の「事蹟」を証明することはできない。

「先島巡回日誌 八重山島之部」明治15年8月

No.1 p.86/8月24日/八重山番所/地震

十二時ころ地震が発生した。大地震ではあったが、家屋や家畜に被害はなかった。

No.2 p.87/8月24日/八重山番所/備荒状況

貯蓄米の量は各年の収穫によって、調節する。全八重山島での備蓄食糧は大体千石くらいある。一年に百二十石ほど積み上げていくが、上納に差し障るときは、「臨時出米」を出すときもある。

No.3 p.88/8月25日/八重山番所/「悪水」

この地に人身を害す「悪水」があるところはないが、「風気」の悪いところがあり、その「気」に感染すると必ず熱病になる。山中には、神所に風気の悪い所があり、樹木を伐採すれば「山神」の祟りにある。ただし、その場所は樹木を伐採するところではなく、祈願等を行うところなので、決して神の祟りに遭う事はない。

No.4 p.89/8月25日/八重山番所/寄生虫

八重山の住民に寄生虫が多く、「虫下し剤」を服用して、20～30匹の虫を下した。

No.5 p.89/8月25日/八重山番所/伝染病（ハフーチ病）

「ハフーチ病」は八重山で一番流行する病気であり、10歳までにこの病気で死亡する人々がとても多い。

No.6 p.89/8月25日/八重山番所/「悪水」

有名な「悪水」を飲んでしまえば、全身がはれてしまい重病になる。

No.7 p.89/8月25日/八重山番所/麻疹と熱病

明治12年に流行した「虎列拉病」は八重山では流行しなかったが、その流行の前から麻疹と熱病で多くの島民が死亡した。

3 地域史所載新聞記事

凡例

1. データベースの項目は以下の通りである。項目の区切りは/で示す。
 - ・地域史名称/巻別/編別・名/発行/刊行年月/目次名/掲載紙名・年月日/pp./災害種別/発生日内容：
備考：
2. 新聞名は、『沖縄朝日新聞』→「沖朝」、『沖縄毎日新聞』→「沖毎」、『沖縄タイムス』→「沖タ」、『先島新報』→「先新」、『八重山新報』→「八新」、『琉球新報』→「琉新」と略記した。
3. 年号は、明治→「M.」、大正→「T.」と表記した。

県関係

沖縄県

- ・沖縄県史/第16巻/資料編6・新聞集成(政治経済1)/琉球政府/1967年5月/黒川属国頭地方開墾談(続)/琉新M.31.8.9/pp.50-51/山猪被害/—
内容：国頭地方の開墾地の各間切ごとの状況と、山猪からの被害について。
備考：「黒川属国頭地方開墾談」p.43、同題の続p.45、続p.47、続p.48、続p.52、続p.53にもあり。ただし、それらに災害関係の記載なし。
- ・沖縄県史/第16巻/資料編6・新聞集成(政治経済1)/琉球政府/1967年5月/農家の損害/琉新M.34.5.21/pp.304/人害/—
内容：島尻郡の知念、玉城、具志頭、高嶺の各間切が土地整理中であるが、例年以上の稀なほどの稲と大豆が豊作であるため、その基準にて土地の等級を定めると後々何かと困ると考えられたため、成長過程の稲と大豆を引き抜いてしまい、それが少なくない損害を生み出している。
備考：—
- ・沖縄県史/第16巻/資料編6・新聞集成(政治経済1)/琉球政府/1967年5月/土地の等級調査と農民の誤解/琉新M.34.9.7/pp.332/人害/—
内容：島尻の土地の等級調査の噂を聞いて、中頭郡の某間切では、秋稲を植えず田畑を打ち捨てたとのこと。
備考：—
- ・沖縄県史/第16巻/資料編6・新聞集成(政治経済1)/琉球政府/1967年5月/各地の麦作/琉新M.36.9.11/pp.530-531/天候不順(雨)/M.36
内容：M.36の沖縄各地における大麦、裸麦、小麦の収穫高および作付け反別とその分析。

収穫高は、天候不順により前年度よりも低い。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／八重山の火災／琉新 M.43.10.11／pp.176／火災／M.43.10.9

内容：八重山にて火災があり、強風に煽られ大火となり、戸数 39、軒数 63、照屋林頭氏の鯉造成工場 2 軒が焼失。

備考：10 日発信の「八重山電報」

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／本年度の鯉／琉新 T.4.10.11／pp.688-689／水温上昇／T.4

内容：T.4 年度の鯉の大漁の原因について。技術上の進歩よりも、天候（暑気続き）が原因で水温が上昇し、また、沖縄本島東海岸側に流れている暖流が原因。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／島尻郡の豆作／琉新 T6.12.10／pp.901／天候不順／T.5 年度

内容：T.5 年が前年度よりも豊作の理由は天候が適順であった事と、前年度が天候不順で収穫高が著しく低かったため。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／本期産糖予想／琉新 T.7.1.20／pp.923-924／旱害と風害、暴風／T.6

内容：T.6 年期甘蔗作柄および産糖予想について。T.6 の 8 月に旱害、9 月初旬に風害、10 月に暴風ありとの記載。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／県下食料欠乏／琉新 T7.1.21／pp.924／寒波（霜）／T.7

内容：60 余年来の寒気で県下各地方に霜あり、そのため甘蔗が枯れ、価格も高騰。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／中頭郡の甘藷／琉新 T.7.2.23／pp.936／旱害と風害／T.6

内容：中頭郡の T.6 の甘藷収穫高について。旱害と風害により不作。

備考：－

・沖縄県史／第17巻／資料編7・新聞集成（政治経済2）／琉球政府／1968年4月／島尻郡甘藷収穫／琉新 T.7.2.27／pp.939-940／暴風雨／T.6

内容：島尻郡の T.6 の甘藷収穫高について。島尻郡は増収だが、離島各村が暴風によって

著しい減収との記載あり。

備考：－

・沖縄県史／第18巻／資料編8・新聞集成（教育）／琉球政府／1966年6月／佐敷校の火災／琉新 M.43.11.9／pp.437-438／火災／M43.11.7

内容：7日午後11時半頃、佐敷尋常小学校が火災で全焼。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／宮古島の大火／琉新 M.32.1.11／pp.23／火災／M31.12.30

内容：夜12頃より西里、下里の2村で火災により民家100余戸焼失。鎮火は翌朝4時ごろ。死傷者はないが、家畜の被害は無数。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／伊平屋島飢饉後の状況／琉新 M.32.5.5／pp.33／飢饉／M.31-32.3

内容：伊平屋島での飢饉の状況。

備考：「三離島民の罹災民へ米を送る」

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／国頭間切の飢饉に就て／琉新 M35.3.19／pp.147／飢饉（暴風による）／M.34

内容：前年度の国頭の2度の暴風が主因の飢饉の発生状況について。食物が蘇鉄になっている。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／甘藷の欠乏と蘇鉄／琉新 M.35.3.21／pp.147／飢饉／M.32-34

内容：M.32-34における甘藷欠乏による蘇鉄を食べての中毒状況。M.34は患者数8名うち死亡者5名。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／飢饉と食物／琉新 M.35.5.25／pp.151-152／飢饉／M.35年度

内容：M.35年の深刻な飢饉の状況とそこでの食糧事情。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／宮古の旱魃と降雨／琉新 M.35.6.11／pp.152／旱魃／M.35.3-5

内容：宮古における3月以降の旱魃が5月5-8日の降雨により回復。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／早魃と各郡の損害／琉新 M37.12.17／pp.244-245／早魃／M.37

内容：県庁の早魃被害調査委員会の調査による直接被害総高。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／早魃被害善後策／琉新 M37.12.19／pp.245-246／早魃／－

内容：M.37の早魃被害を受けての今後の善後策について。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／早害善後策（承前）／琉新 M.37.12.21／pp.246-247／早魃／－

内容：－

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／早害善後策（承前）／琉新 M.37.12.25／pp.247-248／早魃／－

内容：－

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／早害窮民の状態／琉新 M38.1.29／pp.253／早魃／M.37

内容：M.37の大規模な早魃の被害状況について。特に食糧事情。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／風害視察／琉新 M.38.11.9／pp.272-273／暴風雨／－

内容：－

備考：「松月」が記す。

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／被害救助金の支出／琉新 M40.2.20／pp.316／暴風／－

内容：県下の暴風被害を受けた「細民」853名に対して60日間救助の見込みで内務省から1621円22銭4厘の支出有り。

備考：－

・沖縄県史／第19巻／資料編9・新聞集成（社会文化）／琉球政府／1967年6月／三年間における久米島の被害高／琉新 M40.2.23／pp.316／早害、風害／M.37-39

内容：久米島の3年間の災害による被害高について。M.37は早害、M.38-39は風害。

備考：－

北部関係

名護市

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／名護の大雨／
琉新 M36.4.27／pp.133／豪雨／M.36.4.23

内容：近年稀に見る豪雨により名護間切の河水が氾濫し、家屋 20 戸に浸水、田畑にも影響があり農作物に多少の損害とのこと。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／旱魃被害農作物の状況／琉新 M.37.11.11／pp.157-158／－／－

内容：『浦添市史』参照。

備考：知事より内務省への報告の要。

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／久志通信／琉新 M.37.11.21／pp.158-159／旱魃、火災／M.37.8-秋

内容：県下全域が 8 月来の大旱魃であるが、特に山原では山林原野は旅人の火の不始末で山火事が頻発。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／旱魃と各郡の損害／琉新 M.37.12.29／pp.159／旱魃／M.37

内容：M.37 の旱魃による郡別の直接損害総高一覧。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／三署管下の風害／琉新 M.38.11.13／pp.178／暴風雨／M.38.11.2-3

内容：暴風雨による名護署管下の被害状況について。例えば家屋全潰 41 戸、甘藷・甘蔗・山藍は約半分が被害に。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／各地の風害状況（名護間切）／琉新 M.39.11.16／pp.203／暴風雨／M.39.?

内容：暴風雨による名護の被害状況。河川氾濫、家屋浸水、家屋全倒、道路橋梁など破壊、農作物なども損害著しいなど、被害は甚大。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／源河川の大水
／琉新 M.39.11.17／pp.203-204／暴風雨／M.39.11.12

内容：暴風雨による源河川沿いの詳細な被害状況。

備考：「十三日幽仙報」

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／各地の風害（続）
／琉新 M.39.11.17／pp.204／暴風雨／M.39.?

内容：名護の被害状況と件数を列挙。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／国頭郡の洪水
／琉新 M.42.7.9／pp.291／豪雨と洪水／M.42.7.2-3

内容：豪雨により羽地、今帰仁、本部で洪水発生。その被害状況について。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／三浦丸の沈没
／琉新 M.43.10.13／pp.341-342／暴風雨／M.43.10.10-11

内容：名護から来た三浦丸が那覇港外にて暴風による激浪で沈没。5名死亡 29名行方不明。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／〔広告〕三浦
丸沈没／琉新 M.43.10.13／pp.342／暴風雨／M.43.10.11

内容：三浦丸沈没について、船主と荷客取り扱い店が出した報告。

備考：－

・名護市史／－／資料編・2・戦前新聞集成 1／名護市役所／1984年3月／名護の暴風被
害／沖毎 M.43.10.16／pp.343／暴風／M.43.10.8-11

内容：名護における台風の被害状況について。

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・戦前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／羽地村の疲弊
／琉新 T.3.10.1／pp.63／暴風／T.3

内容：度々の台風襲来により国頭村は甘蔗・甘藷の枯死多く被害甚大であること。それにより羽地村では就学児童が一時に300名余退校したとのこと。

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／飢饉と国頭郡の
豚 大恐慌を来す／琉新 T.6.7.29／pp.134／飢饉／T.6

内容：国頭の種豚は、品質は良いものの飢饉のため発育が充分ではなく、旧盆に向け需要

に供給が追いつかなくなりそうとのこと。

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・戦前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／暴風雨に弄ばれて運輸丸名護湾に没す／琉新 T.6.10.11／pp.141-142／暴風雨／T.6.10.9

内容：名護から那覇に向う郵船会社所有の運輸丸が、9日暴風雨にあい破損の上漂流、10日に沈没。乗客150名中100名死亡。

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・戦前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／国頭が寒い 一月中県内各地の寒気 測候所調査／琉新 T.7.2.7／pp.163-163／寒害／T.7.1

内容：－

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・戦前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／〔農村通信〕久志村の義損金／琉新 T.7.2.16／pp.165／火災／T.7.1.25

内容：字辺野古で、個人宅より出火し27軒全焼する事件あり。被害高6500余円。それに対し村当局と有志者が義損金を募る。

備考：－

・名護市史／－／資料編・3・戦前新聞集成 2／名護市役所／1985年3月／副業奨励 農作物不作 豚の捨売／琉新 T.7.3.15／pp.165-166／農作物不作／発 T.7

内容：郡内各村で芋不作。

備考：「安次富技手談」

本部町

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／暴風被害状況／琉新 M.38.8.13／pp.504／暴風／M.38.8.6

内容：渡久地分署の報告による本部の台風被害状況について。甘蔗と山藍は約半分被害を蒙る。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／村民集会後の失火／琉新 M.39.7.8／pp.510／火災／M.39.7.4

内容：渡久地村の個人宅が全焼。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／各地の風害／琉新 M.39.11.17／pp.510／暴風／M.39.11?

Ⅲ-3 地域史所載新聞記事

内容：国頭南部（本部と今帰仁両間切）の台風による被害状況。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／暴風雨と溺死人／琉新 M.39.11.21
／pp.511／暴風雨／M.39.11.12-13

内容：渡久地港に停泊させていた鰹船に乗る 50 歳代男性 2 名が台風のため行方不明に。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／暴風と遭難船／琉新 M.39.11.22
／pp.511／暴風／M.39.11.13

内容：渡久地村出身の男性所有の琉球形九反帆船が名護喜瀬港に停泊中に暴風で破損。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／暴風雨と難破船／琉新 M.39.11.23
／pp.511／暴風雨／M.39.11.12

内容：4 名の本部出身者所有の船が台風によって受けた被害状況について。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／失火二件／沖毎 T.2.3.21／pp.682
／火災／T.2.3.12

内容：字健堅の個人宅から火の不始末で出火。豚一頭焼死、被害高 300 円。

備考：－

・本部町史／－／資料編 1／本部町役場／1979年9月／失火／沖毎 T3.2.7／pp.718／火
災／T.3.1.22

内容：字並里クナガ山の個人宅で火の不始末により出火、家屋全焼。

備考：－

・本部町史／－／資料編 3／本部町史編集委員会／2001年12月／暴風で各漁場の大惨害
／沖夕 T.13.8.22／pp.15／暴風／T.13.8.11

内容：台風による漁村の被害状況。漁船の行方不明、大破など。特に先島が被害甚大。

備考：－

・本部町史／－／資料編 3／本部町史編集委員会／2001年12月／蘇鉄齧る窮民に 恵ま
れた同情金／沖朝 T14.9.13／pp.24／飢饉／－

内容：ハワイと台湾居住の沖縄県出身者から「国頭郡窮民」の救済を目的として 600 円が
寄贈された。

備考：－

東村

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／火事騒ぎ／琉新 M.33.2.27／pp.300
／火災／M.33.2.15

内容：有銘村の個人宅が火の不始末により全焼。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／山林の火災／琉新 M.39.8.24／
pp.319／火災／M.39.8.10-11

内容：瀬嵩村のソノ山が火災。四万坪の損害。原因不明。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／失火／琉新 M.39.10.11／pp.321
／火災／M.39.10.7

内容：瀬嵩村の個人宅が火の不始末により焼失。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／暴風雨と変死人（二）／琉新
M.39.11.22／pp.321／暴風雨／M.39.11.12

内容：平良村の男性所有の琉球形八反帆船の船頭の大里間切与那原村出身の男性が、佐敷
間切馬天港停泊中に、暴風雨により行方不明に。16日遺体発見。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／暴風雨と難破船（三）／琉新
M.39.11.23／pp.321／暴風雨／M.39.11.12-13

内容：12日に辺野古村の男性所有の琉球形三反帆船他1艘が辺野古津口に停泊中暴風雨に
遭い、破損。また、13日に平良村の男性所有の琉球形七反帆船、久志村の男性所有の三
帆船他1艘が宜野座津口に停泊中の12日に暴風雨に遭い、13日に破損。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／失火二件／琉新 M.41.3.7／pp.327
／火災／M.41.3?

内容：久志村字大浦の個人宅が火の不始末により出火、焼失。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／火災三件／琉新 M.41.3.15／pp.327
／火災／M.41.3.4

内容：久志村字久志の個人宅が火の不始末で出火、焼失。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／拝ん所を焼く／沖毎 T.2.2.7／

pp.365／火災／T.2.1.30

内容：久志村字久志の拝所の一棟が原因不明の出火により焼失。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／久志村役場全焼／琉新 T.3.1.30／
pp.370／火災／T.3.1.25

内容：久志村役場が全焼。詳細不明。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／山原通信／琉新 T.3.2.1／pp.370
／火災／T.3.1.25

内容：久志村役場の全焼により書類器具全てが焼失。粕谷伊藤両郡書記官が出張し取調べ中。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／久志役場火災原因／琉新 T.3.2.6
／pp.371／火災／T.3.1.25

内容：久志村役場火災の原因は、当直者等が不在の中で火の不始末が原因と推定。書類以外に戸籍簿も全て焼失。

備考：－

・東村史／第3巻／資料編2／東村役場／1984年3月／久志役場火災と書類／沖毎 T.3.2.13
／pp.371／火災／T.3.1.25

内容：書類全焼に対する役所の対応策について。

備考：－

宜野座村

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／火災二件
／琉新 M.31.6.23／pp.15／火災／M.31.6.17

内容：金武間切伊芸村の個人宅が火の不始末により焼失。

備考：－

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／火事二件
／琉新 M.35.3.1／pp.64-65／火災／M.35.2(?)21

内容：今帰仁間切古知屋村の個人宅が日の不始末により消失。

備考：－

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／旱害被害
農作物の状況／－／pp.124-125／－／－

内容：－

備考：「知事より内務省へ報告の要」

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／失火と放火／琉新 M.38.5.17／pp.137／火災／M.38.5.1

内容：金武間切漢那村字アニン堂村に住む士族が同字の個人宅に放火。

備考：－

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／失火／琉新 M.38.6.29／pp.138／火災／M.38.6.22

内容：金武間切字金武の個人宅で火の不始末のために出火、焼失。

備考：－

・宜野座村誌／第4巻／資料編Ⅱ・文献資料 下／宜野座村役所／1988年3月／暴風に逢ふて溺死／琉新 M.39.2.3／pp.146／暴風／M.39.1.19

内容：金武間切屋嘉村の男性が、航海中に暴風で船が転覆したため溺死、28日遺体発見。

備考：－

大宜味村

・大宜味村史／資料編／－／大宜味村／1978年9月／国頭間切飢饉・実況／琉新 M.35.3.29／pp.503／飢饉／M.35

内容：大宜見の飢饉の状況について。津波と喜如嘉が深刻とのこと。

備考：奥間村より「天南」が。

・大宜味村史／資料編／－／大宜味村／1978年9月／大宜見通信／沖毎 M.43.11.8／pp.519／飢饉・暴風／M.43?

内容：農作物の不作の上に暴風に襲われたため、飢饉が発生。特に根路銘以南。

備考：－

伊是名村

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の飢饉／琉新 M.31.9.17／pp.276／暴風雨／M.31.6.4、6.29

内容：暴風雨により田畑の大半が海水で浸蝕、食料の甘藷が枯死し、飢饉状態に。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島飢饉の詳細／琉新 M.31.10.1／pp.276／暴風雨／M.31.8.26

内容：上記に加えて8.26にも暴風雨があったこと。よって全島の作物が壊滅状態である

こと。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島飢饉の詳細／琉新 M.31.10.3／pp.276／飢饉／－

内容：飢饉の詳細。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋飢饉後の概況／琉新 M.32.5.5／pp.279-280／飢饉／M.31-M.32.3

内容：前年の飢饉を脱した事。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島飢饉後の景況／琉新 M.32.11.21／pp.281-282／－／M.31

内容：－

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の火事／琉新 M.33.3.25／pp.283／火災／M.33.3.11

内容：伊平屋島仲田村の個人宅で火の不始末により出火、類焼5軒。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／失火／琉新 M.36.6.7／pp.295／火災／M.36.5.17

内容：伊平屋島田名村の個人宅で日の不始末により出火、家屋4棟焼失。

備考：

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／難破船／琉新 M.36.7.9／pp.295／暴風雨／M.36.6.16

内容：伊是名村共有琉球形帆船が那覇港からの帰航中に暴風雨により漂流。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の出火／琉新 M.36.1.23／pp.301／火災／－

内容：伊是名村の個人宅で火の不始末により出火、家屋全焼。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の旱魃／琉新 M.37.10.13／pp.303／旱魃／M.37.7-9

内容：早魃続きで農作物が育たず、常食の甘藷も欠乏していると郡役所に報告あり。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の火事／琉新 M.37.10.25／pp.303／火災／M.37.10.12

内容：伊平屋島仲田村の個人宅で火の不始末により出火、家屋全焼、隣家も類焼。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の麦作／琉新 M.39.4.6／pp.306／風害／M.39

内容：蒔種後に風害があり、生育が悪し、との記載有。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／難破船一束／琉新 M.39.10.31／pp.309／強風波浪／M.39.10.12

内容：伊江島大口港に停泊の船が、強風波浪のため船体破損。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋島の風害／琉新 M.39.11.27／pp.309／暴風雨／M.39.11.11-13

内容：伊平屋における「六、七十年来始めて」のレベルの暴風雨による被害状況について。小麦および大根全滅など被害甚大。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／難破船／琉新 M.42.3.31／pp.318／暴風／M.42.3.8

内容：伊是名津口を出帆した船が暴風に遭い、船体が暗礁に触れ破損、積荷流出。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／山原船の転覆／沖毎 M.42.1.23／pp.323／強風波浪／M.42.1.17-18

内容：伊平屋村字伊是名の共有ヤンバル船が強風波浪により転覆、乗組員1名行方不明に。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／伊平屋の暴風被害／琉新 T.1.10.14／pp.350／暴風／T.1.10.4

内容：暴風の被害状況について。

備考：－

・伊是名村史／中巻／島の古文書／伊是名村／1988年3月／島尻郡各離島の早害／琉新

T.2.10.23/pp.354-355/早魃/T.2 夏～

内容：島尻郡各離島における早魃の被害状況について。伊平屋村について抜粋。

備考：－

・伊是名村史/中巻/島の古文書/伊是名村/1988年3月/伊平屋だより/琉新T.2.11.15
/pp.355/早魃/T.2

内容：伊平屋村における早魃の被害状況について。例えば甘蔗の1/3枯死、甘藷は虫害で食料欠乏が予見される。

備考：－

・伊是名村史/中巻/島の古文書/伊是名村/1988年3月/暴風に弄ばれて運輸丸名護湾に沈没す/琉新T.6.10.11/pp.380-381/－/T.6.10.9

内容：－

備考：－

・伊是名村史/中巻/島の古文書/伊是名村/1988年3月/島尻離島風害/琉新T.6.10.26
/pp.381/暴風雨/－

内容：伊平屋における被害高について。被害総額20601円

備考：－

・伊是名村史/中巻/島の古文書/伊是名村/1988年3月/伊平屋の飢饉◇島民甘藷の欠乏に苦む/琉新T.7.1.15/pp.383/早魃、暴風/T.6.4-8、9-10

内容：前年の4-8月までの早魃、9月と10月の暴風により伊平屋島が飢饉状態であることについて。

備考：－

・伊是名村史/中巻/島の古文書/伊是名村/1988年3月/二十年目の飢饉 上里伊平屋村長談/琉新T.7.1.17/pp.383-384/早魃、暴風/T.6.4-8、9-10

内容：伊平屋島の飢饉について上里伊平屋村長の談。

備考：－

南部関係

那覇市

・那覇市史/第2巻上/資料篇/那覇市役所/1966.10/辻の大火/琉新M.34.9.17/
pp.50/火災/M.34.9.16

内容：辻の1娼家より出火、獅子屋小路の囲いが焼失。出火の原因は不明。

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／早魃と酒造家／琉新 M.37.10.1
／pp.85／早魃／M.37

内容：早魃により泡盛酒造者が水の工面に苦勞している状況について。

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／龍潭に井戸を掘る／琉新
M.37.12.13／pp.87／早魃／M.37

内容：首里区では用水が欠乏しているため、龍潭の泥水を汲み出して使用している。

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／二百十日の首里、那覇の被害状
況／琉新 M.38.9.3／pp.96／暴風雨／M38.8.30~9.1

内容：首里・那覇の台風状況およびその被害状況について。

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／市内の暴風雨被害／琉新
M.39.11.14／pp.115／暴風雨／M39.11.11~12

内容：台風の状況およびその被害状況について。

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／首里区内の風害／琉新
M.39.11.15／pp.115／暴風雨／M39.11.11~12

内容：上記の台風被害状況について

備考：－

・那覇市史／第 2 卷上／資料篇／那覇市役所／1966.10／暴風雨被害／琉新 M.39.12.5/
pp.116／暴風雨／?

内容：沖縄県内の台風被害状況の具体数を表にして揭示。

備考：－

・那覇市史／第二巻中の 1／資料篇／那覇市役所／1969.6／警察部及儉徳館全焼す／琉新
T.2.1.20／pp.8-9／火災／T.2.1.18

内容：沖縄県庁検徳館および警察部で出火、全焼したことについての詳説。

備考：目次名は「儉」、記事中は「検」。

・那覇市史／第二巻中の 1／資料篇／那覇市役所／1969.6／首里区暴風被害／琉新
T.4.7.28／pp.98／暴風雨／T.4.7.26

内容：26 日夜の暴風雨による首里区での損害状況について。

備考：家屋全潰数 8、半潰数 11、電線切断 3ヶ所。

・那覇市史／第二巻中の 1／資料篇／那覇市役所／1969.6／大島地方大地震／中外商業
M.44.6.17／pp.403／地震／M.44.6.15

内容：15 日午後 11 時 25 分に約 5 分間の強震。那覇区で死者 1 名、負傷者 6 名、石垣 318
ヶ所破壊。

備考：琉球列島の特に大島郡が甚大の被害を受ける。

糸満市

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／島尻郡早魃彙報／
琉新 M.37.9.29／pp.85／早魃、虫害／M.37.5-9

内容：早魃により甘藷植え付けも不可能か、植えても発育せず、さらには害虫も発生し食
料が不足。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／未曾有の早魃／琉
新 M37.10.9／pp.85／早魃／M.37.5-9

内容：「未曾有」の早魃で、喜屋武、摩文仁、真壁では飲料水も不足している。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／島尻郡早害彙報(1)
／琉新 M.37.10.9／pp.86／早魃／M.37.5-9

内容：島尻郡役所が調査した郡内各間切の早魃被害状況。ひどいところで甘蔗 9 割、甘蔗
ほぼ全滅という被害。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／島尻郡早魃彙報(2)
／琉新 M.37.10.11／pp.86／早魃／M.37.5-9

内容：上記の続き。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／本年の虫害／琉新
M.38.10.17／pp.99／暴風、虫害／M.38

内容：暴風後甘藷の害虫が発生。昨年もひどい早魃被害を受けた喜屋武や摩文仁は食用に
十分な甘藷の収穫が得られず。例えば摩文仁は 1/3 を他所から購入。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982 年 3 月／甘藷害虫の被害／
琉新 M.38.11.5／pp.99／虫害／M.38.7-9

内容：イリムシによる甘藷の被害状況。摩文仁間切は甘藷の 2/5 を他所から購入。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／摩文仁間切の甘蔗／琉新 M.38.11.3／pp.126／旱魃／M.38.7-11 頃

内容：一昨年も旱魃被害を受けた上に M.38 も旱魃の被害を受け甘蔗の発育が著しく不良。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／各地の風害状況／糸満村／琉新 M.39.11.16／pp.127／暴風／M.39.11 頃

内容：糸満村では暴風により家屋全潰 6 戸半などの被害有。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／島尻郡の暴風被害／琉新 M.39.11.20／pp.128／暴風／M.39.11 頃

内容：現糸満市域内における各間切の暴風被害状況について。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／風後の視察 (2) (島尻郡 15ヶ間切)／琉新 M.39.12.6／pp.128-129／暴風雨／M.39

内容：暴風雨による被害高について。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／糸満の火事／琉新 T.4.4.28／pp.432／火災／T.4.4.24

内容：糸満町の個人宅より出火、5棟焼失。損害 500 円。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／九死に一生を拾ふ／琉新 T.4.11.20／pp.443-444／暴風波浪／T.4.11.11

内容：糸満沖で漁労中に暴風波浪にあった行方不明者 18 人中 3 名が無事生還。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／難破船詳報 (1)／琉新 T.4.11.22／pp.444／暴風波浪／T.4.11.11

内容：上記の詳報。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／難破船詳報 (2)／琉新 T.4.11.23／pp.444／暴風波浪／T.4.11.11

内容：上記の続き。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／東町の火事 両芝居も活動も中止 勇悍な糸満女の活動／琉新 T.6.4.5/pp.474／火災／T.6.4.3

内容：東町の材木商店で火の不始末により発火、消火活動に「糸満女」十数名が消防に尽力。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／島尻郡内3ヶ村に害虫発生す／琉新 T.6.7.3/pp.479／虫害／T.6.6.20頃～

内容：喜屋武村一円に甘蔗害虫のアンラ虫が大量発生、駆除に尽力するも蔓延中。

備考：－

・糸満市史／－／資料編 1 近代新聞資料／糸満市役所／1982年3月／島尻の害虫駆除撲滅近きあり／琉新 T.6.7.20/pp.481／虫害／T.6.6.20頃～

内容：島尻郡の各村で害虫の駆除に努め、撲滅間近。

備考：－

大里村

・大里村史／－／資料編／大里村役場／1982年3月／島尻郡の豆作／琉新 T.6.12.10/pp.371-372／天候不順／T.5

内容：T.5は天候不順で収穫が非常に少なかった、との記載有。

備考：－

知念村

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／島尻郡の風害概況／琉新 M.32.7.25/pp.525／暴風雨／M.32.7頃

内容：暴風雨による島尻郡の農作物被害状況について。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／漁業者の行方不明／琉新 M.32.8.21/pp.525-526／暴風雨／M.32.8.7

内容：知念村出身者を含む6名の男性が乗った小舟2艘が暴風雨のため行方不明に。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／島尻郡三ヶ間切の甘蔗作状況／琉新 M.35.9.23/pp.534-535／旱魃／M.35.1-5

内容：知念間切では、1-5月の旱魃で甘蔗の発育が劣る。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／島尻郡干
害彙報（三）／琉新 M.37.10.13／pp.552／旱魃／M.37.6～

内容：知念間切の村別被害高一覧。

備考：前年も 6 月以降旱魃で虫害ありとの記載あり。

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／旱魃被害
農作物の状況／琉新 M.37.11.11／pp.553-554／旱魃／M.37

内容：「七十四五年以来」の旱魃による各種作物の被害状況詳報。例えば甘蔗・甘藷共に平
均 5 割前後が被害に。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／旱魃被害
善後策／琉新 M.37.12.19／pp.554-555／旱魃／M.37

内容：M.37 の旱魃の被害状況について県庁の調査委員による調査表に基づく概説。被害
総額 401 万 4148 円。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／島尻郡の
暴風被害／琉新 M.38.11.7／pp.559／暴風／M.38.11 頃

内容：暴風による島尻郡 7 間切における農作物の被害高。知念の場合、甘蔗 6 割、甘藷 4
割、秋稲 9 割が被害に。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／島尻郡の
農作被害／琉新 M.38.11.9／pp.559／暴風／M.38.11 頃

内容：暴風による島尻郡の被害状況と農作物の被害高。甘蔗・甘藷ともに 5 割前後、秋稲
8 割以上が被害に。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／島尻郡の
砂糖景況／琉新 M.41.7.14／pp.600／旱魃／M.41

内容：旱魃が長く続いたため、砂糖の生産高が予想高よりも減少とのこと。郡内村別産出
高一覧。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編 1 知念の文献史料／知念村役場／1983 年 12 月／島尻郡暴
風被害／沖毎 M.42.9.18／pp.621／暴風／M.42.9 頃

内容：島尻郡内各村の家屋と甘蔗に対する暴風被害高一覧。甘蔗被害は平均 2 割 7 分余。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／新発見の害虫／琉新 T.3.6.17／pp.684／虫害／T.3.6.14～

内容：豊見城村真玉橋付近で発生した甘蔗害虫についての解説と駆逐方法について。

備考：「亀井技手談」

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／新害虫の研究／琉新 T.3.6.19／pp.685-686／虫害／T.3.6.14～

内容：新害虫の詳細と駆除方法。真和志村字国場、与儀、古波蔵、豊見城村字真玉橋が被害を受けており、被害程度は約3割。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／久高島の風害／琉新 T.3.10.7／pp.692／暴風／T.3.9.5-6

内容：暴風により久高島の農作物全てが枯死し、島民は食料に窮している。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／久高島民の窮状／琉新 T.3.10.11／pp.692／暴風／T.3.9.5-6

内容：上記の続報。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／生活に窮せる久高島民△同情ある人々の救護▽△松方郡書記の視察談▽／沖毎 T.3.10.28／pp.693-694／暴風／T.3.9.5-6

内容：松方郡書記による久高島視察後の被害状況報告。特に農作物の被害状況について。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／生活に窮せる久高島民（続）△同情ある人々の救護▽△松方郡書記の視察談▽／沖毎 T.3.10.29／pp.694-695／暴風／T.3.9.5-6

内容：上記の続き。特に島民の生活状況について。

備考：－

・知念村史／第一巻／資料編1 知念の文献史料／知念村役場／1983年12月／島尻郡の豆作／琉新 T.6.12.10／pp.736-737／天候不順／T.5

内容：前年は天候不順で収穫が少なかった、との記載有。

備考：－

座間味村

・座間味村史／下巻／戦争体験記 資料編 索引／座間味村役所／1989年7月／慶良間の暴風被害／琉新 M.39.6.7／pp.465／暴風雨／M.39.5.23

内容：座間味間切における米・西瓜・粟・黍の台風被害状況について。

備考：－

・座間味村史／下巻／戦争体験記 資料編 索引／座間味村役所／1989年7月／島尻郡各離島の早害／琉新 T.2.10.23／pp.489／早魃／T.2

内容：早魃による座間味村のその年の甘蔗被害見込みについて。

備考：－

渡名喜村

・渡名喜村史／上巻／－／渡名喜村／1983年3月／渡名喜島の飢饉／琉新 M.31.9.23／pp.770-771／暴風／?6.4、29

内容：雨が1滴も降らない2度に渡る暴風により粟は実らず、甘藷も8分通りで蘇鉄を食しているが飢饉状態であること。

備考：－

・渡名喜村史／上巻／－／渡名喜村／1983年3月／渡名喜島の惨状／琉新 T.4.2.16／pp.779-780／暴風／T.3.6-9

内容：8度に渡る暴風により農作物が壊滅的な被害を受けたことについての詳報。

備考：－

・渡名喜村史／上巻／－／渡名喜村／1983年3月／渡名喜島現況／琉新 T.4.2.24／pp.780-782／暴風、虫害／T.3

内容：暴風に続き、10・11月に害虫被害により甘藷を始めとした農作物が枯死し、飢饉に陥ってる状況について。

備考：－

・渡名喜村史／上巻／－／渡名喜村／1983年3月／飢饉彙報／琉新 T.4.2.25／pp.782-783／飢饉／－

内容：記者の手帳からの飢饉についての補足。粟国より蘇鉄を購入、11・1月まで購入高計15万8400斤。

備考：－

北大東村

・北大東村誌／－／－／北大東村役場／1986年6月／大東島の暴風・死者数名を出す／

琉新 T.1.10.30/pp.884/暴風/T.1.9.22

内容：大東島およびラサ島における台風被害状況について。

備考：－

先島関係

石垣市

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山の暴風基隆の大海嘯/琉新 M31.8.9/pp.61/暴風/?

内容：八重山の台風被害状況。人家 100 戸吹き倒される。

備考：台湾の基隆にも被害。

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山だより/琉新 M.31.9.2/pp.61-62/獣害・地震/M.29~、M.31.9.1

内容：八重山における鼠被害と地震被害について報告。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山島の竜巻/琉新 M.31.10.25/pp.69/竜巻/M31.9.13

内容：石垣島の竜巻被害について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山旱魃の被害/琉新 M.35.4.27/pp.144-145/旱魃/M35.1.2~

内容：八重山郡下における旱魃による農作物被害の状況。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山旱魃後報/琉新 M35.5.7/pp.145/旱魃/M35.1.2~

内容：八重山における旱魃による農作物被害について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山の暴風景況/琉新 M.35.8.21/pp.153/暴風/M.35.8.8

内容：八重山における台風被害の状況。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I /石垣市役所/1983.3/八重山暴風雨の被

害状況／琉新 M.36.8.25／pp.195／暴風雨／M.36.8.13

内容：八重山における台風被害の状況。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／与那国の暴風雨／琉新 M.36.9.7／pp.195-196／暴風雨／M36.8.12

内容：与那国島における台風被害の状況。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／両先島の暴雨／琉新 M.37.8.21／pp.232／暴風雨／M.37.8.14~16

内容：宮古八重山両郡における台風被害の状況。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／旱害視察員帰庁／琉新 M.37.11.11／pp.239／旱魃／－

内容：－

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山郡旱魃被害の概況／琉新 M.37.12.13／pp.239-240／旱魃／M37.7~8(旧暦)

内容：八重山における農作物の被害および飲料水の欠乏状況について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／旱魃と各郡の損害／琉新 M.37.12.17／pp.241／旱魃／M.37

内容：沖縄県下各郡の旱魃被害額一覧。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／暴風概況／琉新 M.39.10.24／pp.287-288／暴風雨／M.39.10.20~21

内容：八重山の台風の勢力に関する情報。

備考：M.38.11.3にも台風ありとの記載あり。

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山風害の状況／琉新 M.39.10.24／pp.288／暴風／M.39.10.21

内容：八重山の暴風による家屋被害について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山の暴風被害

／琉新 M.39.10.30／pp.288／暴風／M.39.10.21

内容：八重山の暴風被害状況について、その被害数を揭示。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／与那国の飢饉／琉新 M.40.6.25／pp.323／暴風による飢饉／M.39 前後 2 回

内容：与那国島が台風により飢饉にあるということについて。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山の火災／琉新 M.43.10.11／pp.461-462／火災／M.43.10.9

内容：9日に発生した火災について。強風に煽られ大火となり、戸数 39、軒数 63 消失。鯉製造工場 2 軒も類焼。

備考：10日発の八重山電報。地域不明。

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山だより／琉新 M.43.10.28／pp.462／火災／－

内容：9日の火災に言及。

備考：那覇港の三浦丸沈没についても触れている。

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山火災の義金募集／琉新 M.43.11.19／pp.464-465／火災／－

内容：9日の石垣島での火災の被害状況と、義損金の募集について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／暴風被害状況／沖毎 T.2.7.25／pp.560-561／台風／T.2.7.18

内容：18日の八重山地方での台風の被害状況、特に波照間島と与那国島について。波照間島で2名死亡。与那国島では負傷10名、家屋全壊300戸、損害価格約5万円。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山の暴風被害／琉新 T.3.9.24／pp.601／台風／T.3

内容：T.3年に八重山を襲来した台風について。その数8回で被害も甚大、T.3-4は、島民の生活苦が予想されるところのこと。

備考：来覇した大浜用要氏の談。

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山の暴風雨／沖毎 T.3.10.2／pp.601-602／暴風雨／T.3.9.28-29／

内容：八重山郡を襲来した台風の被害状況について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山大火百戸消失／琉新 T.7.2.5／pp.742／火災／T.7.2.2

内容：夜 11 時頃に発生した石垣村字石垣と新川での大火の被害状況。翌 3 日午前 2 時ごろ鎮火。原因は不明。民家 100 余戸消失。人畜への被害はなし。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八重山の大火詳報／琉新 T.7.2.6／pp.743／火災／－

内容：上記の大火の火元と損害見積高について。その額約 2 万 5 千円。

備考：八重山電報

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／石垣村会議員証跡整理協議／先新 T.7.2.15／pp.746／火災／－

内容：7 日に行われた石垣村会議員による 2 日の火災の焼跡の善後策の協議について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／暴風被害の状況／先新 T.7.10.15／pp.802／暴風／T.7.10.4

内容：4 日の暴風による石垣村の被害状況について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 4 新聞集成 I／石垣市役所／1983.3／八月廿四日より廿六日に至る颱風／先新 T.8.9.5／pp.856-857／台風／T.8.8.24-26

内容：24-26 日の台風について。八重山郡は大きな被害なし。

備考：M31-T.8 までの 8 月に沖縄本島を襲来した台風情報についても掲載。

・石垣市史／－／資料編 近代 5 新聞集成 II／石垣市役所／1987 年 3 月／観音堂の火事／八新 T.10.2.21／pp.59／火災／T.10.2.14

内容：石垣村（当時）の観音堂の火事について。原因は、参詣者の火の不始末（「竈を造り火を炊いて」）。午後 8 時発火、午後 9 時鎮火。拝殿 1 棟焼失。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代 5 新聞集成 II／石垣市役所／1987 年 3 月／石垣村の大旋風／八新 T.10.5.21／pp.86／竜巻／T.10.5.17

内容：午後 8 時半頃に石垣港南東から到来した雨を伴った竜巻の被害状況について。被害は、家屋全潰によって 1 名が軽症。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／新川一角の大火／八新 T.10.10.11／pp.113-114／火災／T.10.10.4

内容：石垣村新川で発生した大火の被害状況について。火元は児玉商店の鯉乾燥室。午前12時頃発火、午後1時頃鎮火。被害総額は役1万3千円。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／石垣大川両字の雨騒動／八新 T.11.2.21／pp.143-144／雨／－

内容：字石垣と字大川における降雨時の排水問題について。下水設備がないため、雨のたびに一面が浸水し被害甚大とのこと。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／宮古島八十年来の大暴風／先新 T.11.9.25／pp.204-205／台風および火災／T.11.9.10

内容：10日に宮古に到来した台風の被害状況。倒壊家屋1750余戸、死者11名、負傷者多数、鯉漁船5艘沈没などの被害有り。小学校も多数倒壊したため閉鎖。また、火災も発生し、11戸全焼などの被害有り。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／広告(宮古島大暴風の義損金募集)／八新 T.11.10.11／pp.208／台風／T.11.9.10

内容：10日に発生した宮古での台風被害に対しての義損金寄贈を請う広告。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／義損金送付／八新 T.11.11.21／pp.221／－／－

内容：上記の義損金を宮古島司に送付したことの報告。額は247円11銭

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／宮古島司より義損金寄送の礼状／先新 T.11.11.25／pp.222／－／－

内容：上記の義損金を受理した宮古島司からの礼状。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／沖縄県下の暴風雨／八新 T.12.8.21／pp.303／暴風雨／T.12.8.6

内容：沖縄本島に上陸した台風被害について。風速40mに達し、人畜、農作物被害甚大。家屋も倒壊。汽車も保名橋で突風に吹き飛ばされ、20尺の断崖上から墜落。与那原港内の21艘の漁船も沈没、死者行方不明多数。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／八、九日頃の烈風で本郡の甘藷被害甚大／八新 T.12.10.21／pp.309／暴風（台風）／T.12.10.7-9
内容：八重山郡を襲った台風の被害状況について。離島は野菜と甘藷がほぼ全滅のため、蘇鉄を食べているとのこと。特に黒島は蘇鉄も食べつくし西表に採取に出向いてるとのこと。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／石垣市役所／1987年3月／新川の火事／八新 T.13.4.21／pp.339／火災／T.13.4.17

内容：午後6時3、40分頃新川で火災。火元は川勝富四郎氏の鯉製造工場。原因は繭の乾燥中に発火。午後8時ごろ鎮火。被害総額約1万3千円。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／被害甚大を極む近年稀なる豪雨／八新 T.13.7.21／pp.356-357／豪雨と台風／T.13.7.14-16

内容：豪雨による石垣島の被害状況について。14日の最大降水量は、1898年8月6日の記録を越えて96mm3を記録。宮良川は3日間川止め、その他田畑作物と牛馬の流出の被害甚大。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／報告書(海底爆発々見ノ件)／先新 T.13.11.5／pp.374／海底爆発／T.13.10.31

内容：大阪商船株式会社所有の宮古丸の船長加納直市氏による鳩間島附近の海底での爆発に関する電報での報告。報告先は沖縄県庁、八重山島庁、那覇測候所、八重山測候所、神戸海洋気象台など。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／鳩間海底爆発詳報／八新 T.13.11.11／pp.375／海底爆発／T.13.10.31

内容：基本的に上記と同じ文章。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／鳩間附近の海底爆発で石垣島の騒ぎ／八新 T.13.11.11／pp.375／海底爆発／－

内容：31日の鳩間島附近の海底爆発について、石垣島でユタが津波が来襲すると予言したため、大騒動が生じた件について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／号外再録(鳩

間近海大爆発)／八新 T.13.11.11／pp.375／海底爆発／T.13.10.31

内容：－

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／十数年来曾て見ざる八重山の暴風雨／八新 T.14.9.1／pp.432-433／暴風雨／T.14.8.26

内容：26日に到来した暴風雨による与那国島を除く八重山郡での被害状況について。10数年間未曾有の暴風雨だとのこと。被害総額は約40万円、死者6名、重軽傷12名。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／本郡の暴風雨／八新 T.15.8.21／pp.483-484／暴風雨／T.15.8.13-15

内容：八重山郡に到来した暴風雨の被害状況について。竹富村の被害が甚大。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／暴風雨災害取調表／先新 T.15.8.25／pp.486-487／暴風雨／－

内容：八重山郡各村ごとの暴風雨での被害についてのデータ一覧。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／十四日の暴風被害後報／八新 T.15.9.1／pp.488／暴風雨／T.15.8.13-14

内容：13-14日の暴風雨での竹富村の被害状況のデータ。全壊家屋253、行方不明者4、被害総額181,294円など。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／暴風とさんばし／先新 T.15.9.11／pp.489／暴風／T.14-15

内容：－

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／十五日の暴風最大風速五十三米／八新 T.15.9.21／pp.492-493／暴風雨／T.15.9.15-17

内容：15日に八重山郡を襲撃した暴風雨による被害状況について。

備考：－

・石垣市史／－／資料編 近代5 新聞集成Ⅱ／石垣市役所／1987年3月／食料の欠乏／八新 T.15.10.1／pp.493／旱害と暴風／T.15

内容：－

備考：－

補録：琉球・沖縄災害史研究文献目録——地震および津波被害を中心に（暫定）

大森房吉

明治42年8月29日の沖縄地震、1909、『地学雑誌』21号

牧野清

八重山の明和大津波、1968、自費出版

三好寿

1771年4月24日の大津波について、1968、『地震』2輯21巻

沖縄県総務部消防防災課編

沖縄県災害誌、1977、沖縄県

高良倉吉

近世末期の八重山統治と人口問題、1982、高良『琉球王国史の課題』（1989、ひるぎ社）

加藤祐三・木村政昭

沖縄県石垣島のいわゆる「津波石」の年代と起源、1983、『地質学雑誌』89号

加藤祐三

八重山地震津波（1771）の津波遡上高、1986、『歴史地震』89号

中田・高・河名俊男

明和8年（1771年）の地震津波について、1986、『歴史地震』2号

加藤祐三

八重山地震津波、1987、『月刊地球』9号

加藤祐三

八重山地震津波（1771）の遡上高、1987、『地震』2輯40巻8号

加藤祐三・大山春翠

琉球列島多良間島での八重山地震津波：Ⅱサンゴ礁岩塊から推定した津波の挙動と伝承との対比、1987、「琉球大学理学部紀要」45号

加藤祐三・日高和己・川野良信・新城竜一

琉球列島多良間島での八重山地震津波（1771）：1. サンゴ礁岩塊の移動と津波遡上高、1988、『地球科学』42巻2号

島尻克美

宮古島の津波に関する一史料、1988、『文化課紀要』5号

松本剛

明和の大津波を通して見えてきた海洋底の素顔、2006、『季刊沖縄』30号

加藤祐三・森宣雄

1882（明治15）年7月25日沖縄島南部の被害地震の発見、1995、『地震』2輯48巻

森宣雄・加藤祐三

1882（明治15）年7月25日沖縄島南部被害地震関係史料解題、1996、『琉球大学理学部紀要』62号

加藤祐三

1909（明治42）年8月29日沖縄島南部の被害地震の新史料、1997、『地震』2輯49巻

河名俊男・伊達望ほか

石垣島における1771年明和津波の遡上高と岩塊の移動、2000、『第17回歴史地震研究

発表会講演要旨集』

沖縄県における自然災害リスクとその対応力に関する基礎調査、2000、(財)亜熱帯総合研究所

豊見山和行

「大波寄揚候次第」中の海運関係史料、2004、『琉球王国における海運と漂流・漂着に関する研究』、琉球大学教育学部

河名俊男

総論・沖縄の自然災害、2007、『しまたてい』42号

中村衛

沖縄の地震活動について、2007、同上

加藤祐三

沖縄の津波と防災、2007、同上